

身近な緑環境の現状と認知・利用からみた緑勢圏評価に関する研究

大分大学大学院 工学研究科 博士前期課程 建設工学専攻
佐藤誠治・小林祐司 建築・都市計画研究室
11E5012 北原拓也

研究の背景

都市への人口や産業の集中により**周辺森林は都市的土地利用への転換**を促され、その結果多くの**森林の連続性**が失われ、**小規模化**していった。

また都市郊外では、無秩序な宅地開発により**森林や農地は細分化**され、都市緑地は減少の一途を辿っている。

人々の環境、防災に対する意識の向上や緑地に関する**取り組みの活発化**に伴い、緑地環境に対する的確な対応が求められている。

身近な緑地環境の詳細な把握、特に人々の生活が営まれる場において、その生活の実感として、**人間の感覚により近い尺度**で緑に目を向ける必要がある。

研究の目的と位置づけ

現状の都市緑地政策において都市緑地を評価する為の基本的な指標としては、緑被率が挙げられる

しかし、この評価指標では残存量や割合しか表わすことができず、ヒューマンスケールでの都市緑地の配置構造や分布状況を把握することはできない



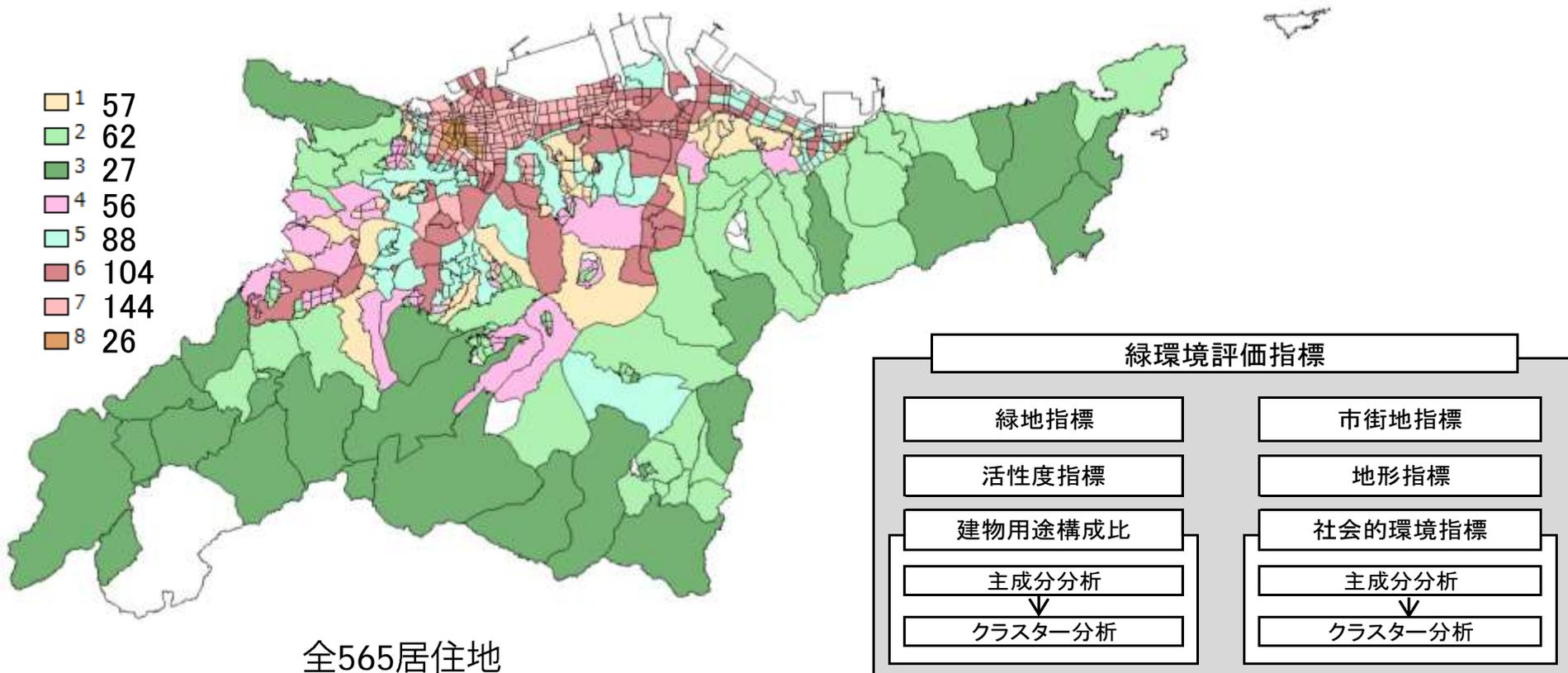
そこで、本研究では緑被率だけでは表すことのできない、よりヒューマンスケールな緑の概念として緑勢圏*1を用いる

緑勢圏：人が緑地と関わることで生まれる、緑地が人々の行動・心理に影響を与える圏域

*1 井上恵, 「緑勢園」についての考察 (その1), 大阪市公園局業務論文報告集PP71-74 (1986)

研究の対象地

昨年度の研究では6つの緑環境評価指標を用いて、居住地を8つのクラスターに分類

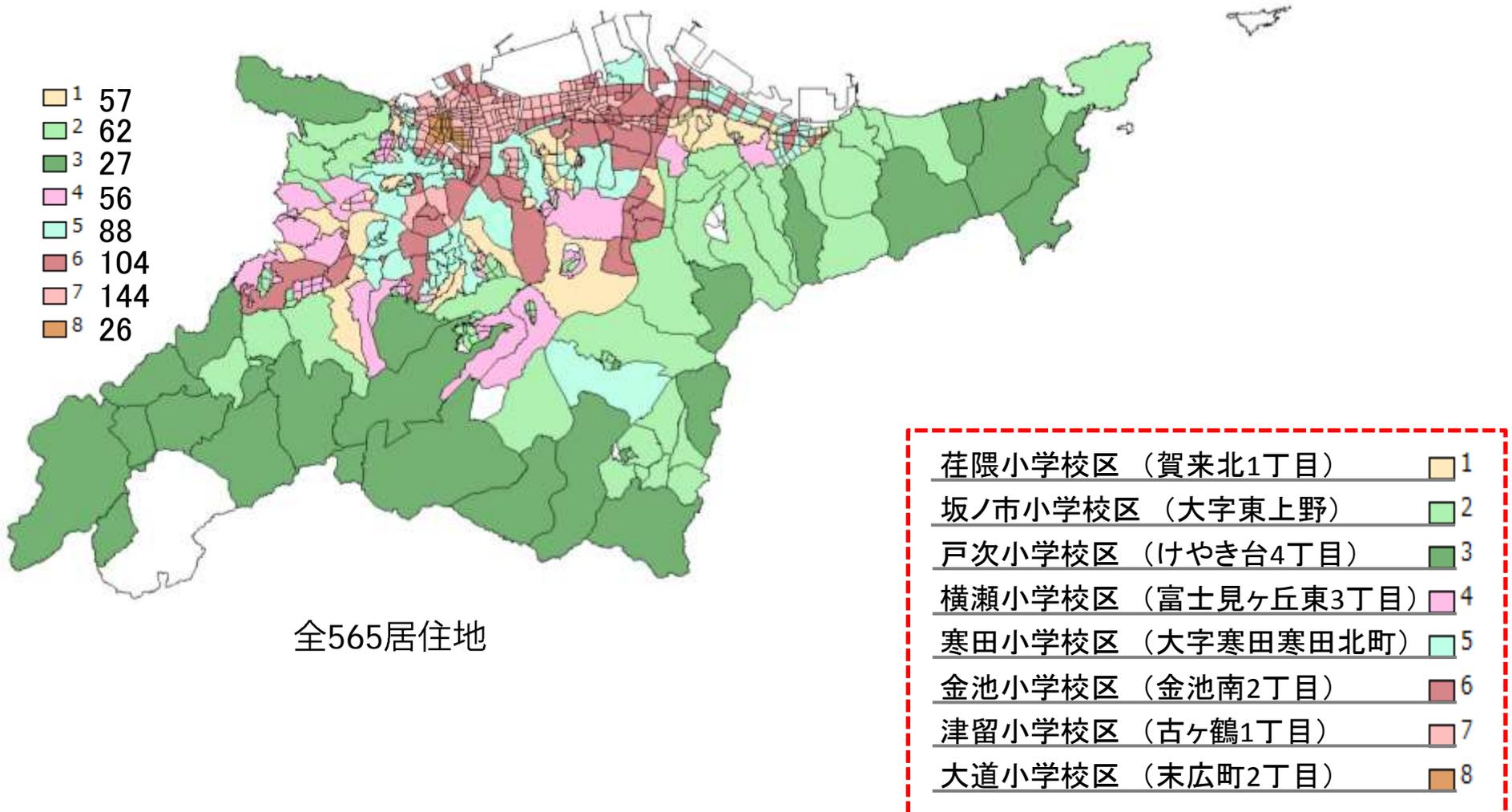


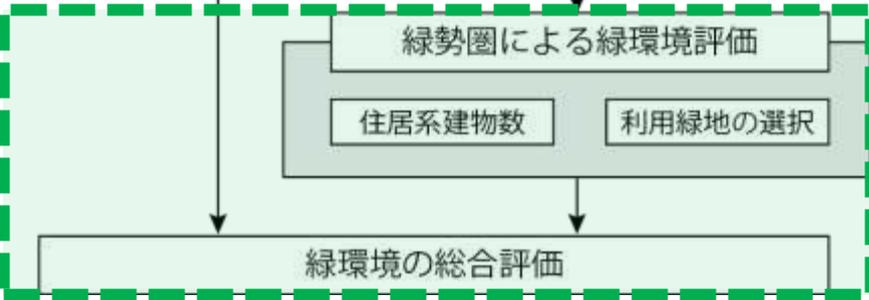
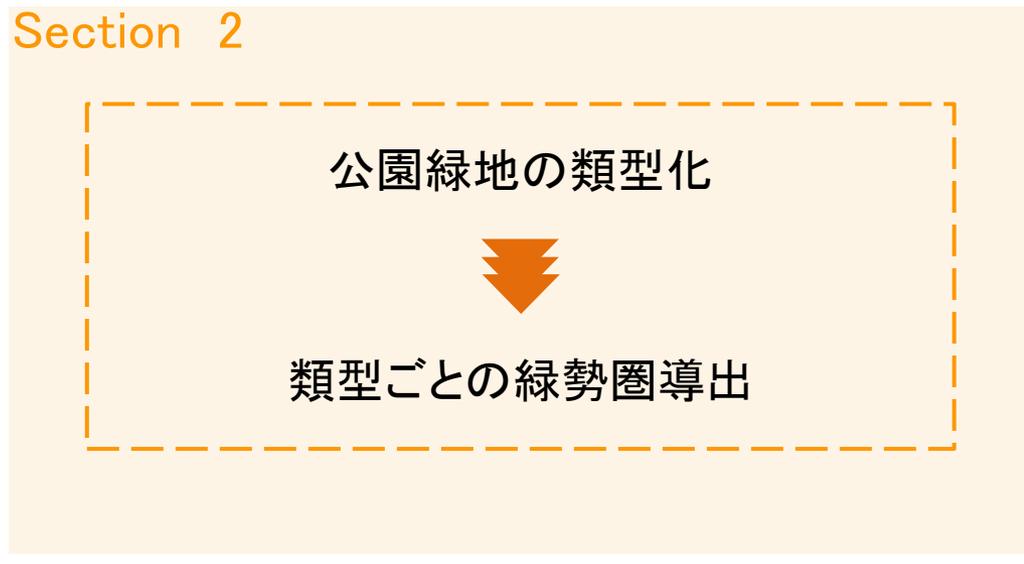
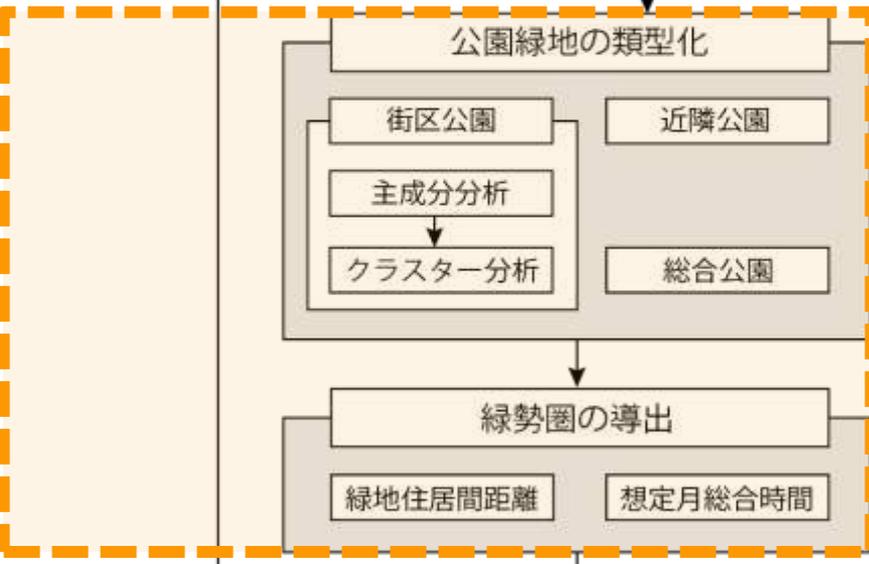
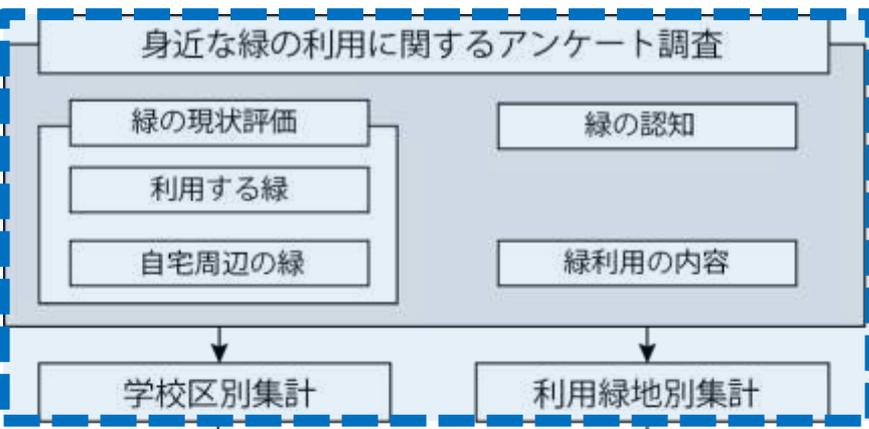
類型	特性			地区数
	自然度	開発ポテンシャル	都市的機能	
クラスター1	高	高	高	57
クラスター2	高	低	高	62
クラスター3	高	低	低	27
クラスター4	高	高	高	56

類型	特性			地区数
	自然度	開発ポテンシャル	都市的機能	
クラスター5	低	高	低	88
クラスター6	低	高	低	104
クラスター7	低	低	高	144
クラスター8	低	低	高	26

研究の対象地

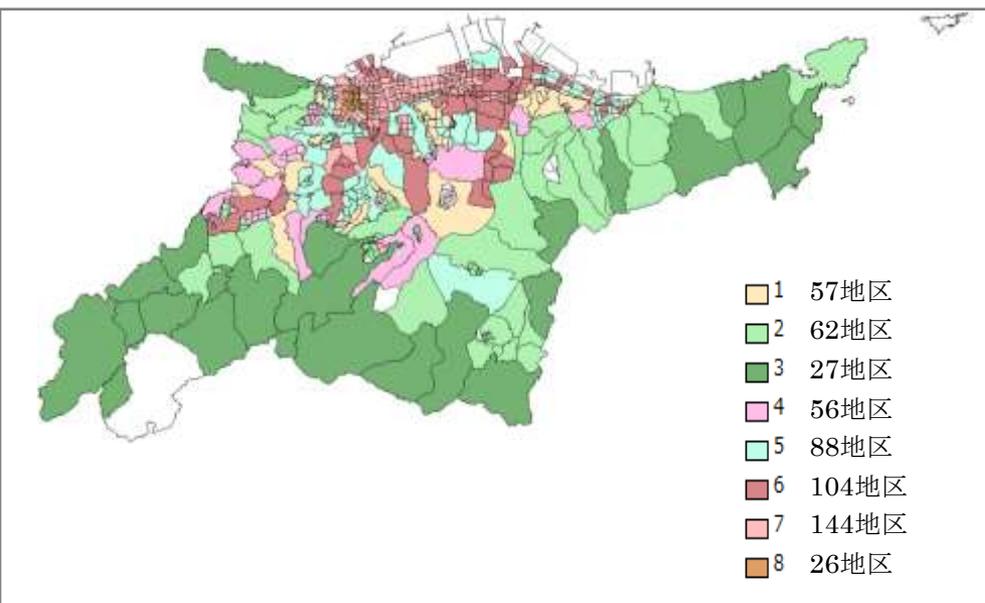
8クラスターから、人口が平均的な8地区を抽出、
8地区が含まれる**8小学校区**を調査対象とした。





「身近な緑・緑空間に関するアンケート調査」

調査対象地区・対象者



8小学校の児童(5, 6年生)と保護者



児童数は合計536人

調査票を各小学校に通う児童(5, 6年生)に配布し、保護者と一緒に回答してもらう

調査票には児童が答える項目、保護者が答える項目の両方を記載

- 荏隈小学校区 (賀来北1丁目) ■ 1
- 坂ノ市小学校区 (大字東上野) ■ 2
- 戸次小学校区 (けやき台4丁目) ■ 3
- 横瀬小学校区 (富士見ヶ丘東3丁目) ■ 4
- 寒田小学校区 (大字寒田寒田北町) ■ 5
- 金池小学校区 (金池南2丁目) ■ 6
- 津留小学校区 (古ヶ鶴1丁目) ■ 7
- 大道小学校区 (末広町2丁目) ■ 8

小学校	5年生			6年生			合計		
	回収数	配布数	回収率(%)	回収数	配布数	回収率(%)	回収数	配布数	回収率(%)
荏隈	35	36	97.2	28	30	93.3	63	66	95.5
坂ノ市	37	40	92.5	31	35	88.6	68	75	90.7
戸次	32	38	84.2	37	38	97.4	69	76	90.8
横瀬	17	31	54.8	28	29	96.6	45	60	75.0
寒田	37	37	100.0	27	30	90.0	64	67	95.5
金池	34	35	97.1	28	37	75.7	62	72	86.1
津留	18	30	60.0	26	28	92.9	44	58	75.9
大道	19	29	65.5	20	33	60.6	39	62	62.9
合計	229	276	83.0	225	260	86.5	454	536	84.7

アンケート調査項目

問	項目	対象
問1	属性 児童(性別, 学年, 居住地) 保護者(性別, 年代, 居住地)	全回答者
	緑利用について (1)住んでいる周りの緑(児童・保護者) 1.山林 2.公園 3.街路樹 4.田畑 5.分からない 6.その他	
問2	(2)一番よく利用する緑(児童・保護者) 1.山林 2.公園 3.街路樹 4.田畑 5.分からない 6.その他 7.利用していない	全回答者
	(3)(2)で回答した緑と自宅の位置を地図上にマーク	
	「地図にマークした緑」について(児童・保護者)	
問3	(1)利用目的【複数回答可】	問2 (2) 5 7を除く
	(2)利用頻度	
	(3)利用時間	
	(4)誰と利用するか【複数回答可】	
	(5)親水空間の有無【複数回答可】	
問4	「地図にマークした緑」の現状について(児童・保護者)	問2 (2) 5 7を除く
	(1)緑量	
	(2)空間の広さ	
	(3)遊具の数	
	(4)休憩スペース	
	(5)生物の数	
	(6)管理	
(7)眺め		
問5	「地図にマークした緑空間」の安全性【複数回答可】(保護者)	全回答者
問6	「住んでいる周辺の緑」について(児童・保護者)	
	(1)緑量	
	(2)管理	
問7	(3)眺め	
	学校・地域・家庭での環境学習について	
	(1)どこで環境について学習するか	
問8	(2)環境学習で行った体験【複数回答可】(児童)	全回答者
	(3)環境学習で取り入れて欲しい体験【複数回答可】(児童・保護者)	
問8	自由記述(保護者)	全回答者
	(1)住んでいる地域の緑と緑空間についての課題, 要望	
	(2)学校・地域・家庭での環境教育についての課題, 要望	

回答者の属性

利用する緑地・自宅の位置

利用目的・頻度・時間

利用する緑地の現状評価

自宅周辺の緑地の現状評価

学校・地域・家庭での環境学習

自由記述

金池，荏隈小学校区は「利用する緑の現状評価」において、緑量の評価が低い。その他の小学校区についても緑量についての評価は高くなかった。

戸次小学校区は「自宅周辺の緑の現状評価」において、緑量の評価が高い。しかし、その他の小学校区は緑量についての評価が低い結果となった。

表：アンケート調査結果総括表

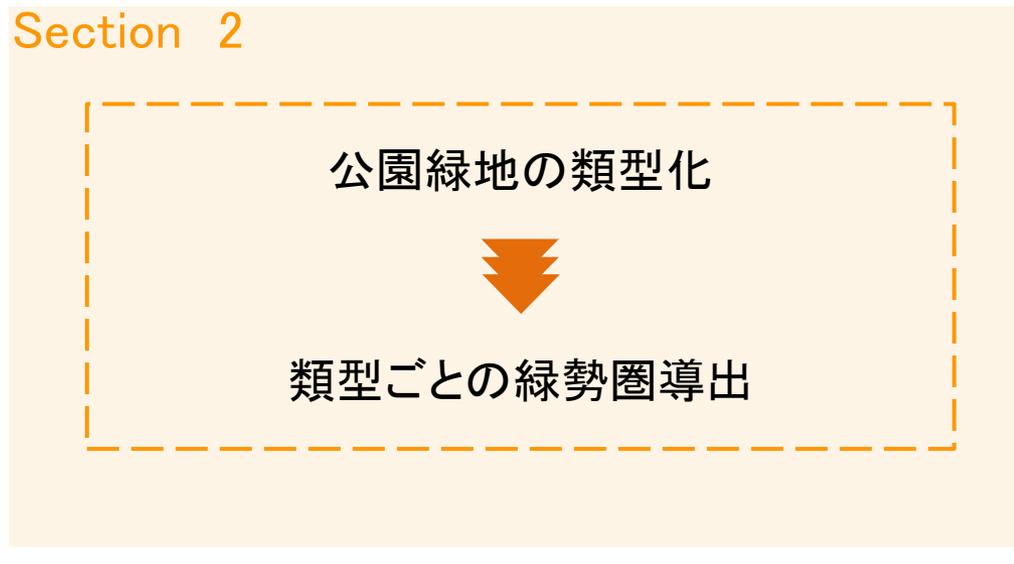
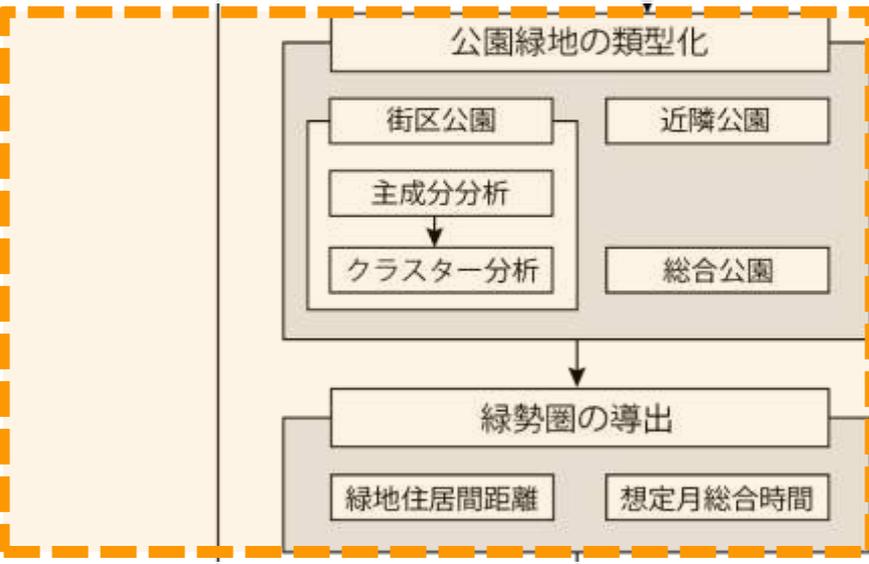
		アンケート調査項目特性				
		緑の認知と利用	緑利用の内容	利用する緑の現状の評価	自宅周辺の緑の現状の評価	学校・地域・家庭での環境学習
学校区	坂ノ市	A	A	A	B	C
	大道	B	B	B	C	D
	横瀬	C	D	B	B	A
	寒田	A	A	A	B	A
	金池	B	B	C	C	B
	津留	B	D	B	B	C
	戸次	A	C	A	A	B
	荏隈	D	A	C	B	D
特性	A	山林、田畑の認知度 → 高	利用頻度 → 高	安全性評価 → 高	緑量評価 → 高	学習内容：自然体験 → 高 取入希望内容：全て → 高
	B	山林、田畑の認知度 → 低	利用頻度 → 低	安全性評価 → 低	緑量評価 → 低	学習内容：自然体験 → 高 取入希望内容：全て → 中
	C	田畑のみ認知度 → 低	利用頻度が高、低に分かれている	緑量評価 → 低	緑量評価 → 低 眺め評価 → 低	学習内容：自然体験 → 低 取入希望内容：自然体験 → 高
	D	田畑のみ認知度 → 高	利用頻度以外の項目に特徴			学習内容：自然体験 → 低 取入希望内容：全て → 高

金池，荏隈小学校区は「利用する緑の現状評価」において、緑量の評価が低い。その他の小学校区についても緑量についての評価は高くなかった。

戸次小学校区は「自宅周辺の緑の現状評価」において、緑量の評価が高い。しかし、その他の小学校区は緑量についての評価が低い結果となった。

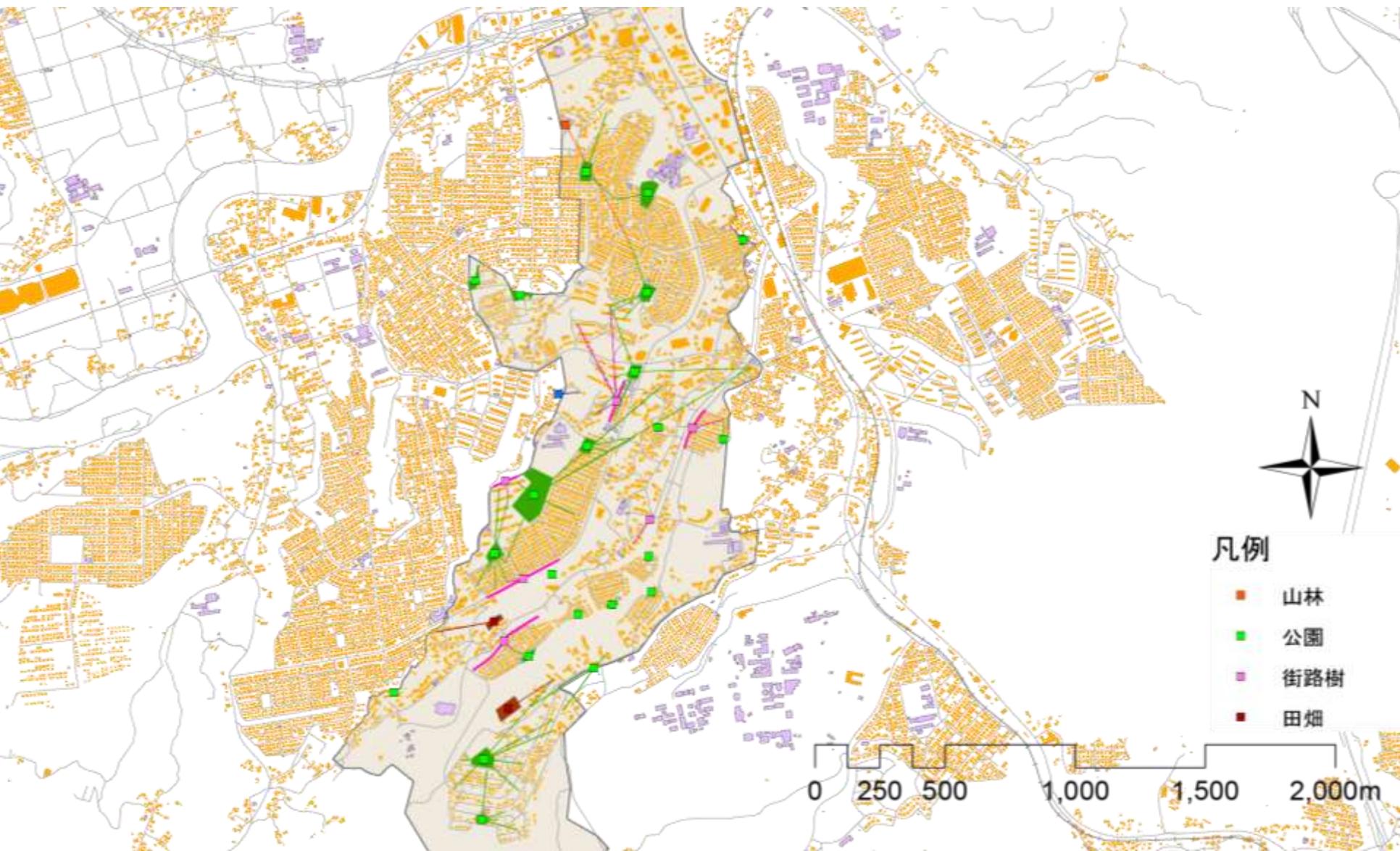
表：アンケート調査結果総括表

		アンケート調査項目特性				
		緑の認知と利用	緑利用の内容	利用する緑の現状の評価	自宅周辺の緑の現状の評価	学校・地域・家庭での環境学習
学 校 区	坂ノ市	A	A	A	B	C
	大道	B	B	B	C	D
	横瀬	C	D	B	B	A
	寒田	A	A	A	B	A
	金池	B	B	C	C	B
	津留	B	D	B	B	C
	戸次	A	C	A	A	B
	荏隈	D	A	C	B	D
特 性	A	山林、田畑の認知度 → 高	利用頻度 → 高	安全性評価 → 高	緑量評価 → 高	学習内容：自然体験 → 高 取入希望内容：全て → 高
	B	山林、田畑の認知度 → 低	利用頻度 → 低	安全性評価 → 低	緑量評価 → 低	学習内容：自然体験 → 高 取入希望内容：全て → 中
	C	田畑のみ認知度 → 低	利用頻度が高、低に分かれている	緑量評価 → 低	緑量評価 → 低 眺め評価 → 低	学習内容：自然体験 → 低 取入希望内容：自然体験 → 高
	D	田畑のみ認知度 → 高	利用頻度以外の項目に特徴			学習内容：自然体験 → 低 取入希望内容：全て → 高



利用する緑と自宅間の距離

(地図にマークしてもらった住居から利用緑地の重心までの経路距離)



想定月総利用時間

アンケート調査「問3(2)緑の利用頻度, (3)緑の利用時間」から想定される各サンプルの1か月間の総利用時間は以下により算出した。

表: 想定月総利用時間算出

問3(2)利用頻度の選択項目	想定月総利用時間計算式
①ほぼ毎日	想定月総利用時間 = 平均利用時間 $\times \frac{5}{7} \times 30$
②週に1回	想定月総利用時間 = 平均利用時間 $\times \frac{1}{7} \times 30$
③週2・3回	想定月総利用時間 = 平均利用時間 $\times \frac{2.5}{7} \times 30$
④月1・2回	想定月総利用時間 = 平均利用時間 $\times 1.5$
⑤年1・2回	集計対象外

$$\text{※平均利用時間} = \frac{(\text{平日利用時間} \times 5) + (\text{休日利用時間} \times 2)}{7}$$

表:その他使用データ詳細

データ名	内容	元データ
① 住居系建物棟数	住居系建物棟数(棟)	大分市都市計画基礎調査(Shp形式)
② 商業系建物棟数	商業系建物棟数(棟)	大分市都市計画基礎調査(Shp形式)
③ 工業系建物棟数	工業系建物棟数(棟)	大分市都市計画基礎調査(Shp形式)
④ 緑地面積	土地被覆分類による緑地面積	ASTERデータ2011年6月
⑤ 標高	標高値(m)	数値地図10mメッシュ(標高)
⑥ 傾斜	傾斜度(°)	数値地図10mメッシュ(標高)
⑦ 利用する緑地と自宅間の距離	利用する緑地と自宅間の距離(m)	数値地図 25000(空間データ基盤)
⑧ 公園面積	街区公園面積(m ²)	大分市都市計画基礎調査(Shp形式)



①～⑥については、街区公園の重心を中心とした半径250mのBufferを集計範囲とした。

※250m: 街区公園の誘致距離*2

*2 国土交通省都市・地域整備局公園緑地課・景観課
公園緑地関係データベース

(www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/index.html)

緑勢圏導出の流れ

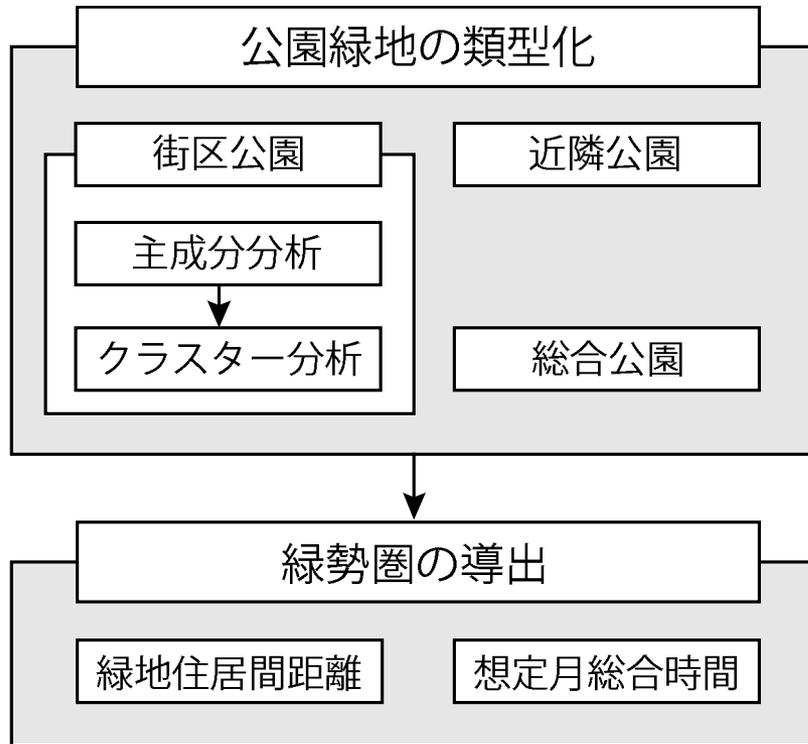


図: 緑勢圏導出の流れ

最も多く利用され、活動的な利用がなされている緑地は公園であることから、8小学校区内の**公園**について、**緑勢圏を導出**する。

対象小学校区内の公園には、総合公園、近隣公園、街区公園がある。
街区公園については、主成分分析、クラスター分析を行って、さらに**細かく分類**する。

街区公園(全65公園)について、下表の9変数を用いて主成分分析を行った。結果として第3主成分までを採用し、各成分を右のように解釈した。



第1主成分・・・「緑環境近接度」
 第2主成分・・・「緑量評価」
 第3主成分・・・「居住密度」

表: 主成分分析結果

変数	第1主成分	第2主成分	第3主成分
傾斜(°)	0.926	-0.043	-0.054
標高(m)	0.860	0.083	0.379
公園学校間距離(m)	0.847	0.121	-0.032
緑地面積(m ²)	0.816	-0.236	-0.206
商業系建物数	-0.792	0.043	-0.110
工業系建物数	-0.572	0.237	-0.556
公園面積(m ²)	0.084	-0.823	0.065
緑被率(%)	0.059	0.785	0.298
住居系建物棟数	-0.116	0.260	0.910
固有値	3.956	1.499	1.433
寄与率	43.961	16.654	15.926
累積寄与率	43.961	60.614	76.540

各成分をもとにクラスター分析(Ward法)を行い、**街区公園**を**4クラスター**に分類した。



公園緑地の6類型

街区公園の4類型に**近隣公園**、**総合公園**を加えた**6類型**

- クラスター1 (街区公園)
- クラスター2 (街区公園)
- クラスター3 (街区公園)
- クラスター4 (街区公園)
- 近隣公園
- 総合公園

表: クラスターの特性(街区公園)

	特性			公園数
	緑環境近接度	緑量評価	居住密度	
クラスター1	低	低	低	27
クラスター2	高	高	低	16
クラスター3	高	低	高	16
クラスター4	高	高	高	6

表: 変数の平均(街区公園)

	公園面積 (㎡)	緑被率 (%)	住居系建物棟数	工業系建物棟数	商業系建物棟数	緑地面積 (㎡)	標高 (m)	傾斜 (°)	公園学校間距離(m)	公園数
クラスター1	2178.7	26.07	351.59	9.67	21.52	3750.3	0.78	1.10	724.5	27
クラスター2	873.2	36.66	273.94	5.81	5.81	32523.4	4.62	8.57	1478.7	16
クラスター3	3579.3	24.51	426.38	2.19	4.81	22365.0	5.39	7.60	1300.2	16
クラスター4	1011.3	58.90	749.00	1.33	4.83	11871.5	6.84	4.56	1330.2	6
最大値	11019.0	70.75	872	24	45	94590.6	8.73	17.00	2155.6	
平均値	2094.4	31.32	388	6	12	16164.6	3.42	4.86	1107.8	
最小値	149.0	2.94	104	0	0	0.0	0.30	0.02	178.3	

各公園類型において、公園の重心から「**利用する緑と自宅間の距離**」を半径としたBufferを「**想定月総利用時間**」の利用が想定される緑勢圏とする。

例：クラスター1(街区公園)の緑勢圏

月に8.2時間の利用が想定される公園重心から半径324.1mの圏域

表：公園類型ごとの利用のされ方

都市公園類型		利用する緑と自宅間の距離(m)	想定月総合利用時間(h)
街区公園	クラスター1	324.1	8.2
	クラスター2	212.4	4.4
	クラスター3	298.2	8.5
	クラスター4	127.3	4.9
近隣公園		665.7	14.9
総合公園		643.3	3.0
全体		334.2	10.3

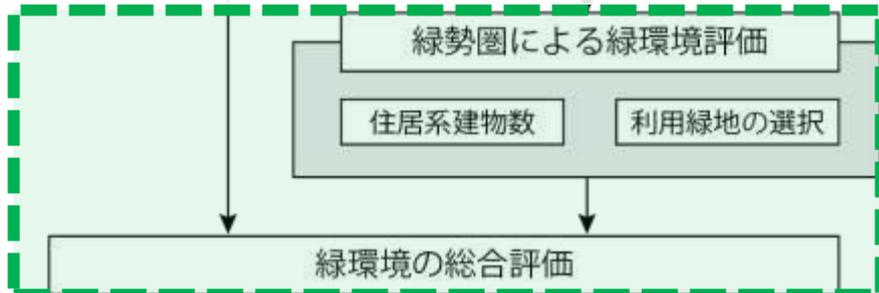
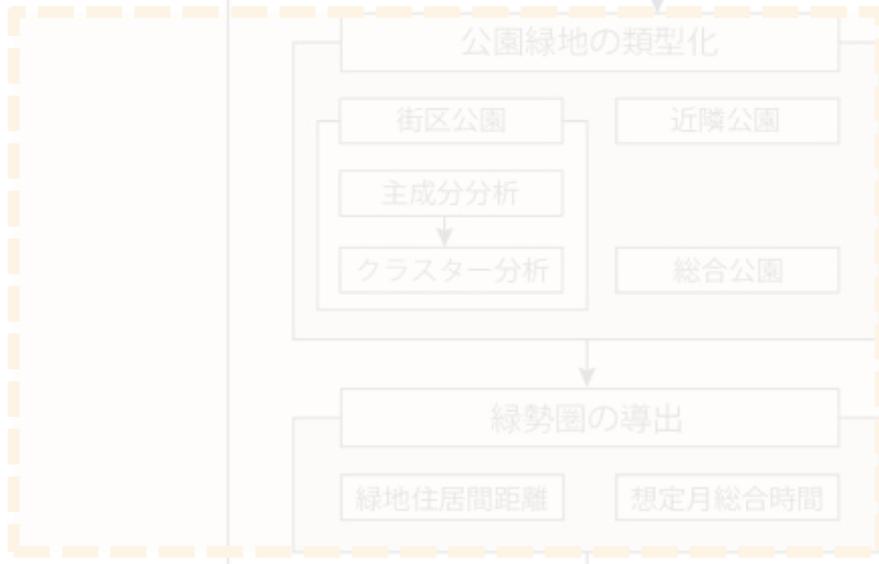
Section 1

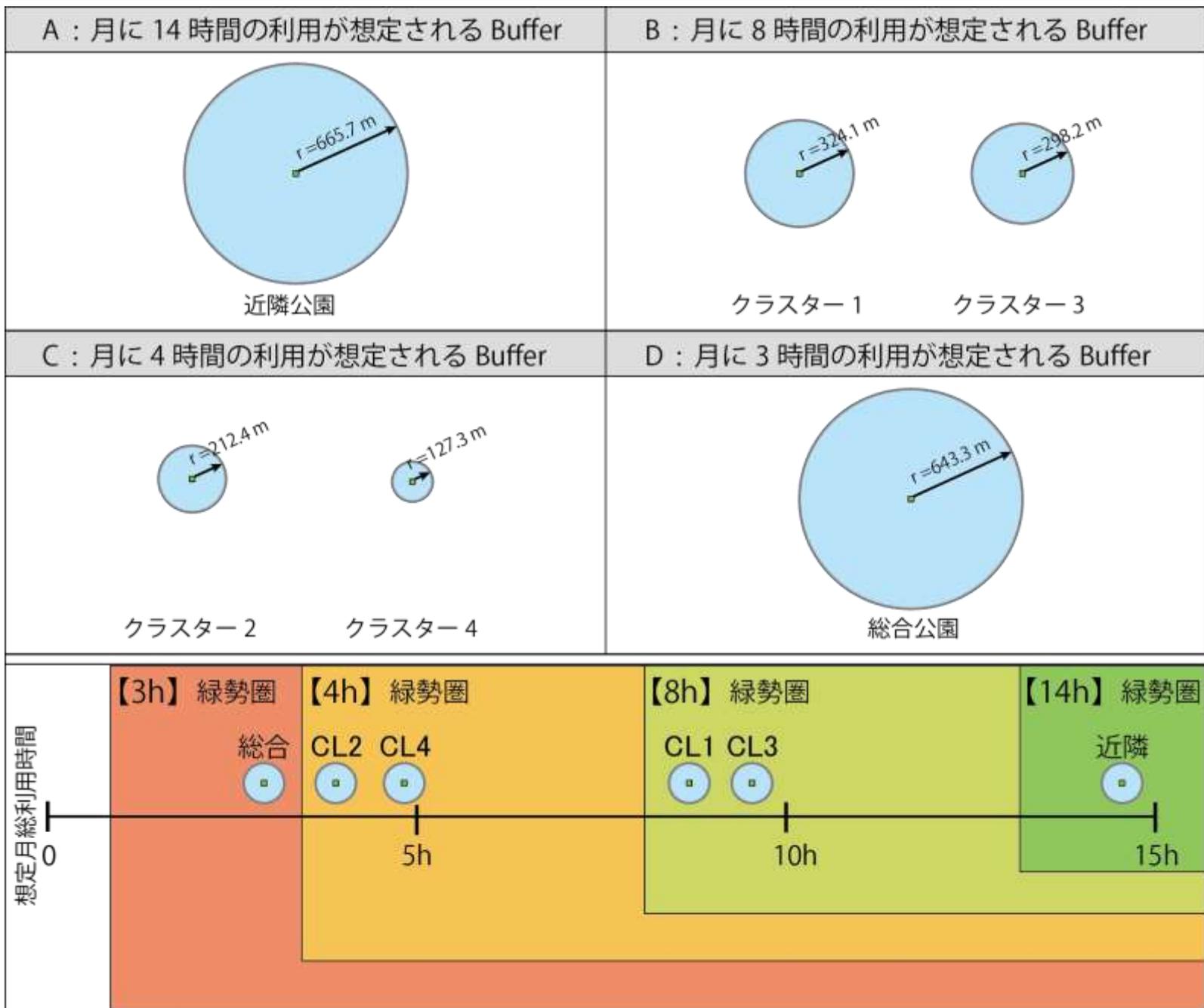


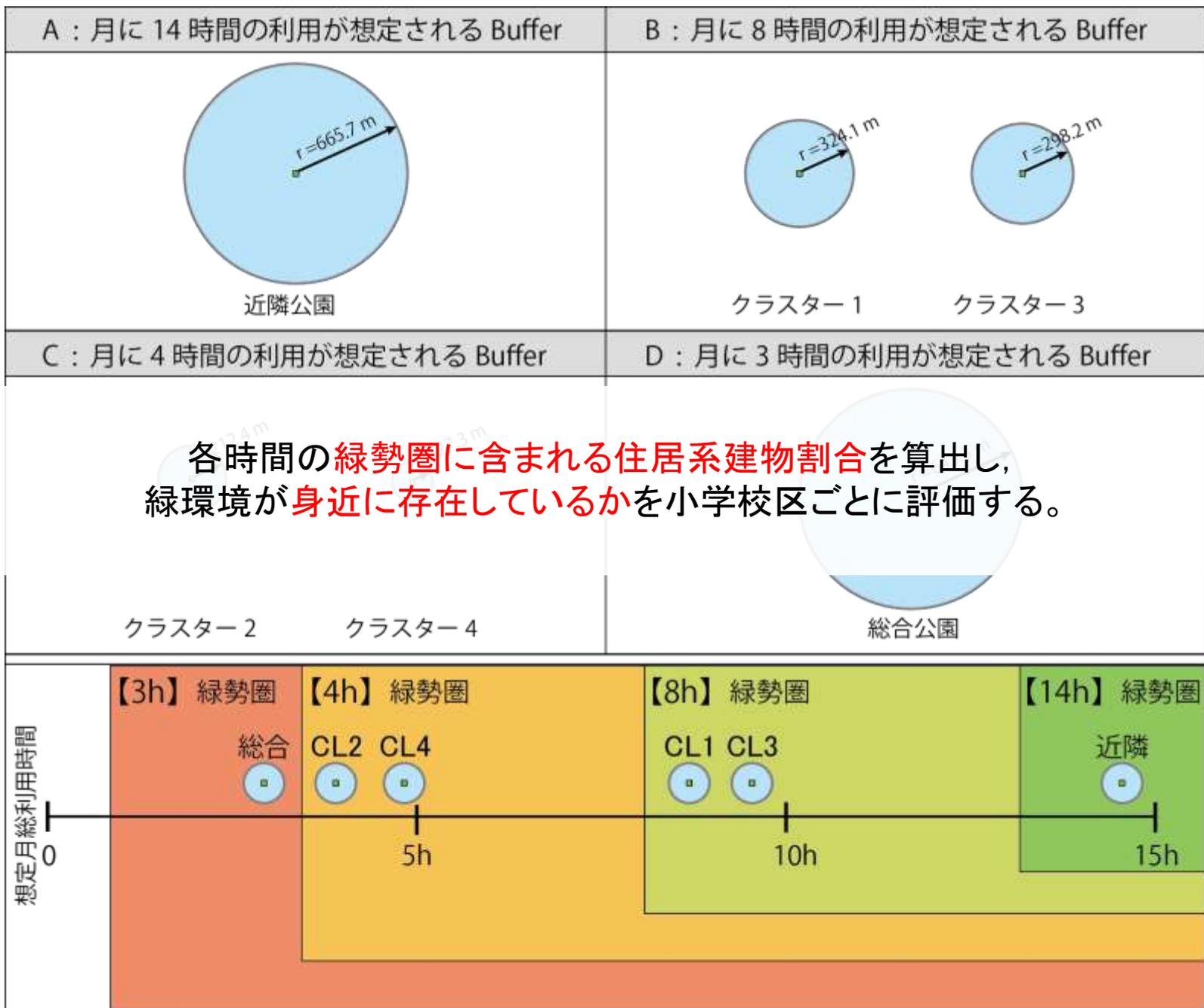
Section 2



Section 3





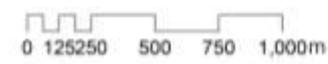


【14h】緑勢圏：寒田小学校区

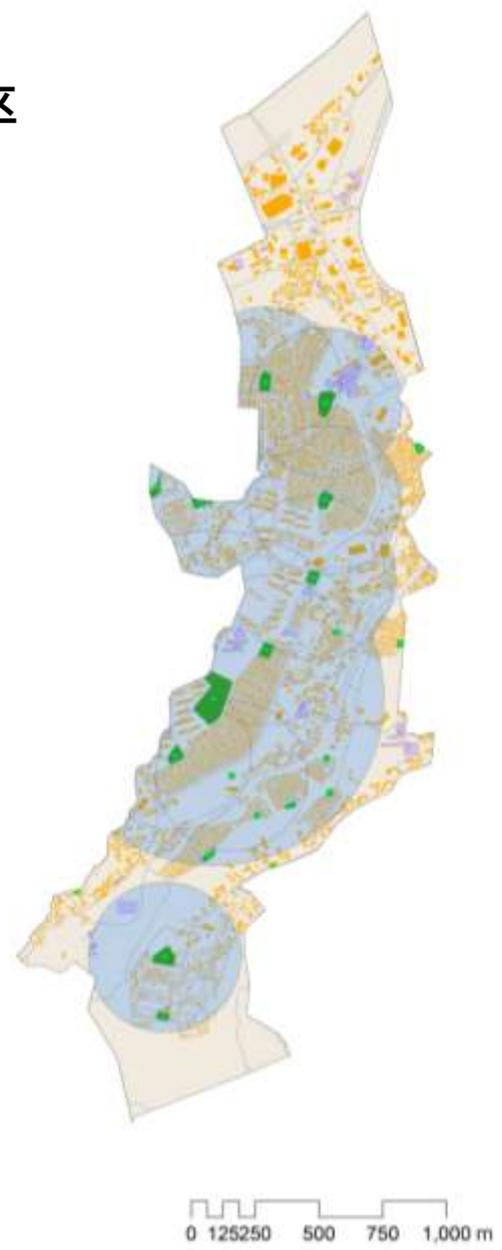


緑勢圏内の住居系建物割合

37.65%



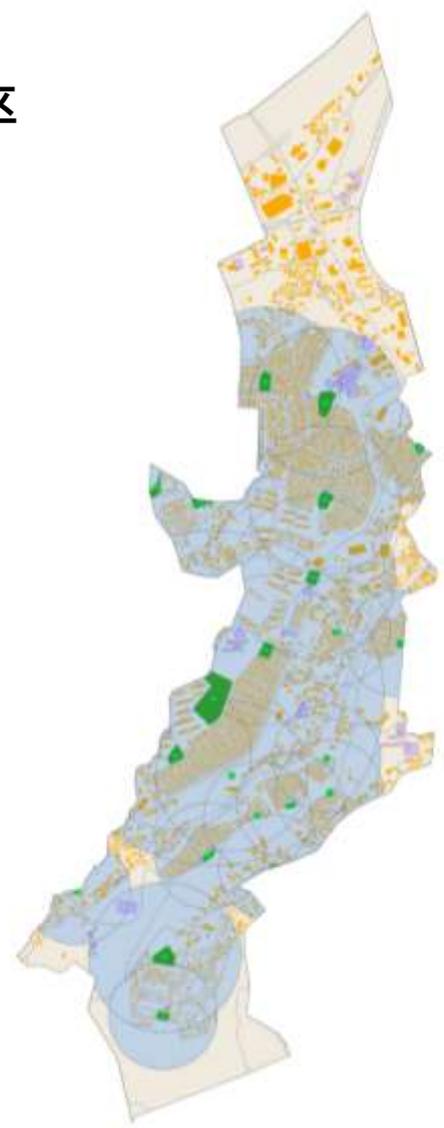
【8h】緑勢圏：寒田小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

79.68%

【4h】緑勢圏：寒田小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

90.16%



【3h】緑勢圏

「寒田」、「津留」の割合が最も高く、緑環境が身近に存在している。「坂ノ市」、「大道」、「横瀬」は緑勢圏内住居系建物割合が6割を超えていることから、比較的緑環境が身近である。「戸次」、「金池」は割合が低く、特に「金池」は8割以上の住居が緑勢圏に含まれておらず、緑環境が身近ではないといえる。

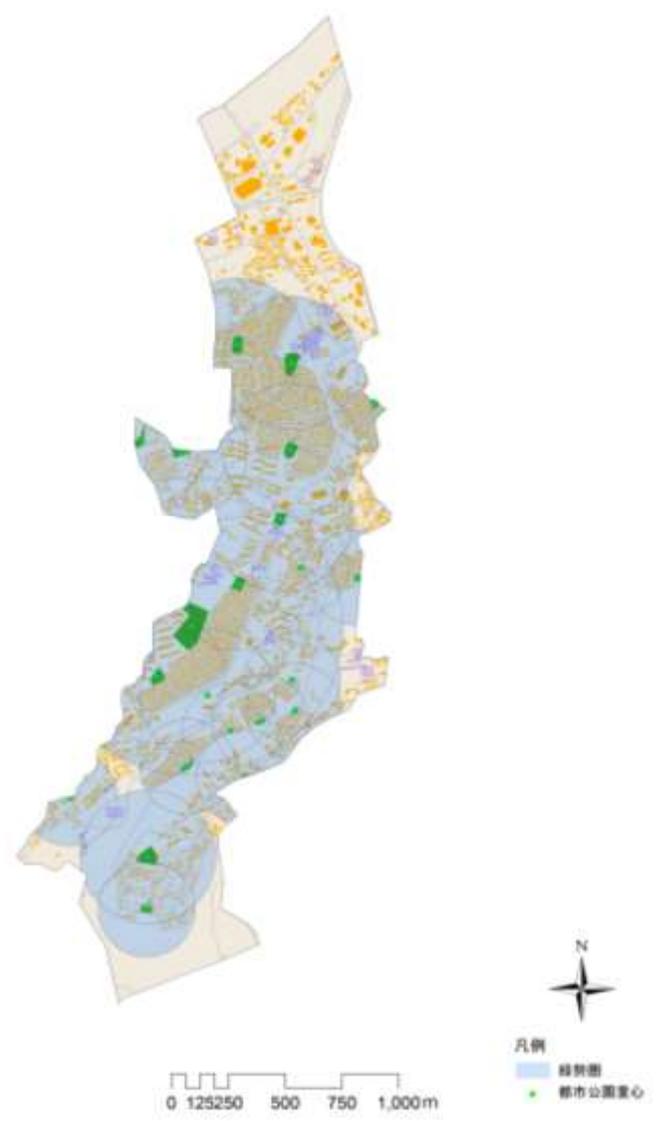
【8h】緑勢圏

「寒田」、「津留」の割合が高く、長時間の利用が想定される。また、「坂ノ市」、「大道」は6割を超えており、比較的長時間の利用が想定される。

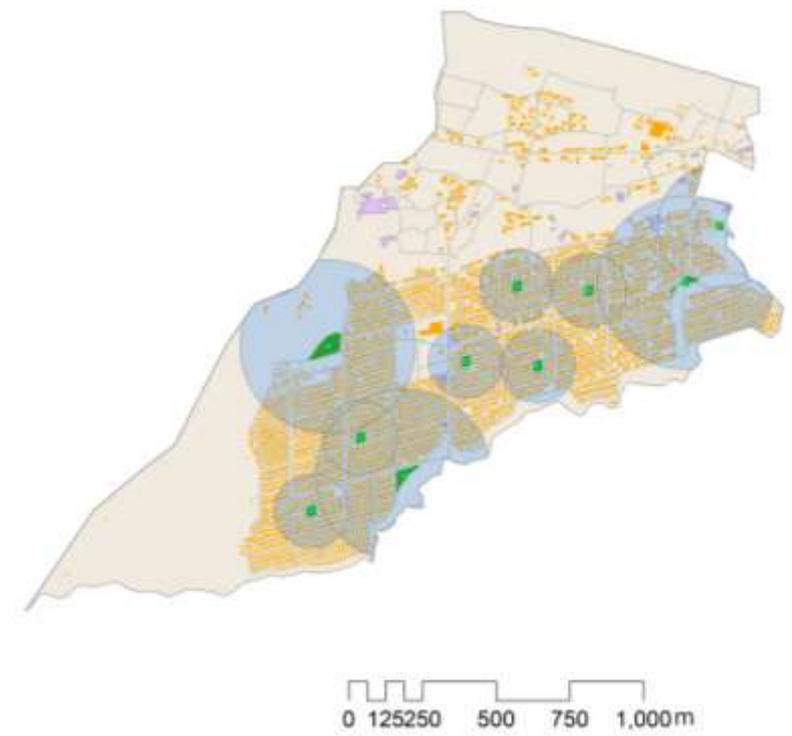
表：各学校区の緑勢圏内住居系建物割合

学校区	住居系建物棟数	緑勢圏内住居系建物割合(%)			
		【3h】緑勢圏	【4h】緑勢圏	【8h】緑勢圏	【14h】緑勢圏
坂ノ市	3919	61.44%	61.44%	61.44%	50.63%
大道	1971	78.79%	67.02%	63.98%	0.00%
横瀬	3806	69.65%	69.65%	46.64%	0.00%
寒田	3007	90.16%	90.16%	79.68%	37.65%
金池	2782	18.66%	7.48%	0.00%	0.00%
津留	2187	96.20%	89.07%	89.07%	0.00%
戸次	4056	43.49%	43.49%	43.29%	0.00%
荏隈	2346	51.71%	51.71%	51.71%	0.00%
全体	24074	61.99%	59.08%	52.99%	12.94%

【3h】緑勢圏：寒田小学校区



【3h】緑勢圏：横瀬小学校区



【3h】緑勢圏において、2以上の公園緑地の
緑勢圏に重複して含まれる住居系建物

||

利用する公園緑地を選択できる

「津留」は利用する緑地の選択肢が最も多い。

「坂ノ市」、「寒田」は2公園以上の利用を選択できる住居系建物割合が高い。

「大道」、「金池」は2公園以上が4割程度とやや低く、3公園以上の割合も低いことから、利用する公園緑地の選択肢が少ない。

「横瀬」、「荏隈」は3公園以上が非常に低くなっている。特に「荏隈」については、2公園以上の割合も3%に満たないことから、利用する公園緑地を選択しにくい現状である。

表：各学校区の利用緑地選択性

学校区	【3h】緑勢圏内 住居系建物棟数	利用緑地を選択できる住居系建物割合		
		2公園	3公園	4公園
坂ノ市	2408	77.12%	45.06%	12.21%
大道	1553	42.95%	14.49%	0.13%
横瀬	2651	16.94%	2.00%	0.00%
寒田	2711	73.77%	30.87%	12.87%
金池	519	39.50%	24.47%	0.00%
津留	2104	83.56%	56.51%	45.87%
戸次	1764	63.83%	20.75%	3.23%
荏隈	1213	2.64%	0.08%	0.00%
全体	14923	54.24%	26.02%	11.17%

緑勢圏による緑環境評価の結果

想定利用時間が長く、広い緑勢圏の公園緑地を有する小学校区は、緑環境が身近に存在し、緑利用の選択肢が多い。

緑利用の選択肢が多い小学校区の中には、公園緑地が一部に集中し、学校区内で緑環境の良否の差が大きい小学校区が存在する。

緑勢圏評価が高評価であっても、緑の現状評価は低い小学校区が多い。

今後の課題

本研究は緑勢圏によるヒューマンスケールの緑環境評価を目指したものであり、居住者の**緑地利用の現状**から**緑環境を評価**できたことは**一定の成果**である。

「認知」と「利用」の観点から緑勢圏評価を行ったが、今後は「**認知**」の評価をさらに**深化**し、緑勢圏評価を行う必要がある。

ご清聴ありがとうございました。

大分大学大学院 工学研究科 博士前期課程 建設工学専攻
佐藤誠治・小林祐司 建築・都市計画研究室
11E5012 北原拓也

井上恵, 「緑勢園」についての考察 (その1)より

都市における経済活動とは反対の人間性を回復させる活動の施設装置に精神厚生空間があるが、それは家庭であり、野外レクリエーション活動であり、文化活動である。これらの精神厚生空間に大きなウエイトをもつものがアメニティ装置であり、そのアメニティ装置の中でも緑がもつ役割は非常に大きい。このことは、日常生活の環境評価と快適性、緑との評価との間に、密接な相関があることが解かる。

そこで緑の効用が市民へ影響を及ぼす圏域を“**緑勢圏**”と定義した。緑勢圏を作る緑としては、都市内の全ての緑(庭, 学校, 神社, 河川, 公園, 街路等の緑)である。これらの緑の評価にも、人間の知覚, 行動に沿った人間的な尺度により評価し, “緑勢圏”を設定し, 都市環境の改善を効率的に効果的に推進する必要がある。又, 他の都市施設・装置についても, 人間的な尺度で得られた, 各機能の影響圏域を評価, 設定し, それらの圏域で覆れた快適な都市空間の創造が急がれる

緑被率: Bing mapsの衛星写真に1mのメッシュをかけ, 以下の式により算出した。



$$\text{緑被率} = \frac{\text{樹木の含まれるメッシュ数}}{\text{都市公園全体のメッシュ数}} \times 100(\%)$$

表：緑の認知について【複数回答】

		合計[人]	山林	公園	街路樹	田畑	わからない	その他
坂ノ市	児童	68	45.6%	82.4%	51.5%	61.8%	1.5%	7.4%
	保護者	67	47.8%	82.1%	62.7%	68.7%	0.0%	7.5%
大道	児童	37	16.2%	81.1%	48.6%	13.5%	5.4%	2.7%
	保護者	40	17.5%	70.0%	65.0%	20.0%	2.5%	5.0%
横瀬	児童	45	62.2%	82.2%	40.0%	33.3%	2.2%	4.4%
	保護者	45	62.2%	75.6%	55.6%	42.2%	0.0%	6.7%
寒田	児童	63	47.6%	93.7%	46.0%	25.4%	6.3%	3.2%
	保護者	64	53.1%	93.8%	62.5%	32.8%	0.0%	9.4%
金池	児童	61	23.0%	65.6%	60.7%	9.8%	3.3%	18.0%
	保護者	62	24.2%	58.1%	79.0%	16.1%	1.6%	16.1%
津留	児童	43	7.0%	97.7%	46.5%	18.6%	0.0%	9.3%
	保護者	43	7.0%	90.7%	62.8%	23.3%	0.0%	14.0%
戸次	児童	67	59.7%	74.6%	37.3%	79.1%	0.0%	3.0%
	保護者	69	56.5%	69.6%	44.9%	87.0%	0.0%	2.9%
荏隈	児童	64	23.4%	73.4%	25.0%	51.6%	4.7%	7.8%
	保護者	65	29.2%	63.1%	35.4%	56.9%	1.5%	10.8%
全体	児童	448	37.3%	80.6%	44.2%	39.7%	2.9%	7.1%
	保護者	455	38.9%	74.9%	57.8%	46.4%	0.7%	9.0%

表：緑の利用について

		合計[人]	山林	公園	街路樹	田畑	わからない	その他	緑を利用していない
坂ノ市	児童	68	4.4%	83.8%	4.4%	1.5%	0.0%	4.4%	1.5%
	保護者	68	2.9%	52.9%	10.3%	7.4%	4.4%	8.8%	13.2%
大道	児童	35	2.9%	88.6%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	2.9%
	保護者	37	0.0%	48.6%	8.1%	0.0%	2.7%	2.7%	37.8%
横瀬	児童	45	2.2%	86.7%	2.2%	4.4%	0.0%	0.0%	4.4%
	保護者	45	4.4%	44.4%	11.1%	4.4%	2.2%	4.4%	28.9%
寒田	児童	63	1.6%	88.9%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	3.2%
	保護者	64	4.7%	48.4%	17.2%	4.7%	3.1%	6.3%	15.6%
金池	児童	60	3.3%	55.0%	10.0%	0.0%	0.0%	13.3%	18.3%
	保護者	60	0.0%	36.7%	21.7%	0.0%	1.7%	10.0%	30.0%
津留	児童	43	0.0%	86.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%	9.3%
	保護者	43	0.0%	58.1%	11.6%	2.3%	0.0%	7.0%	20.9%
戸次	児童	67	4.5%	74.6%	6.0%	1.5%	3.0%	6.0%	4.5%
	保護者	69	5.8%	46.4%	13.0%	4.3%	2.9%	8.7%	18.8%
荏隈	児童	64	1.6%	67.2%	0.0%	1.6%	9.4%	6.3%	14.1%
	保護者	66	1.5%	34.8%	7.6%	3.0%	6.1%	9.1%	37.9%
全体	児童	445	2.7%	77.8%	3.6%	1.3%	2.5%	4.7%	7.4%
	保護者	452	2.7%	45.8%	12.8%	3.5%	3.1%	7.5%	24.6%

表: 利用する緑の7段階評価

	緑量		空間の広さ		遊具の数		休憩施設 (ベンチ等)の数		生物の数		管理		眺め		
	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	
小学校区	坂ノ市	-0.17	-0.34	-0.20	-0.20	-1.23	-0.86	-0.70	-0.75	-0.77	-0.71	0.66	0.60	0.48	0.55
	大道	-0.53	-0.76	-0.50	-0.67	-1.19	-1.36	-0.94	-1.10	-1.45	-1.34	-0.29	0.00	0.16	-0.16
	横瀬	-0.14	-0.15	0.05	-0.28	-1.30	-1.36	-0.88	-1.31	-0.76	-0.87	-0.25	-0.20	0.27	0.20
	寒田	-0.14	-0.29	-0.21	-0.39	-1.07	-1.05	-0.74	-0.89	-0.98	-0.84	0.23	-2.04	0.07	0.09
	金池	-0.65	-0.74	-0.63	-0.79	-1.60	-1.37	-1.16	-1.30	-1.28	-1.31	-0.06	0.30	-0.12	0.12
	津留	-0.28	-0.58	-0.18	-0.44	-1.15	-0.94	-0.88	-1.21	-1.25	-1.18	-0.03	-0.06	0.18	0.18
	戸次	0.00	-0.13	-0.08	-0.22	-1.33	-1.24	-1.11	-1.31	-0.95	-0.87	-0.23	-0.50	0.29	0.15
	荏隈	-0.53	-0.70	-0.62	-0.84	-1.31	-1.31	-1.03	-1.22	-1.36	-1.23	-0.10	-0.12	-0.15	-0.35
	全体	-0.28	-0.44	-0.29	-0.46	-1.27	-1.16	-0.93	-1.11	-1.07	-1.01	0.03	0.04	0.15	0.12
評価点	3	とても多すぎる		とても広すぎる		とても多すぎる		とても多すぎる		とても多すぎる		とても手入れされている		とても良い	
	2	多すぎる		広すぎる		多すぎる		多すぎる		多すぎる		手入れされている		良い	
	1	やや多すぎる		やや広すぎる		やや多すぎる		やや多すぎる		やや多すぎる		やや手入れされている		やや良い	
	0	ちょうどよい		ちょうどよい		ちょうどよい		ちょうどよい		ちょうどよい		ふつう		ふつう	
	-1	やや少なすぎる		やや狭すぎる		やや少なすぎる		やや少なすぎる		やや少なすぎる		やや荒れている		やや悪い	
	-2	少なすぎる		狭すぎる		少なすぎる		少なすぎる		少なすぎる		荒れている		悪い	
	-3	とても少なすぎる		とても狭すぎる		とても少なすぎる		とても少なすぎる		とても少なすぎる		とても荒れている		とても悪い	

凡例  : -0.50以下  : +0.50以上

表：自宅周辺の緑の7段階評価

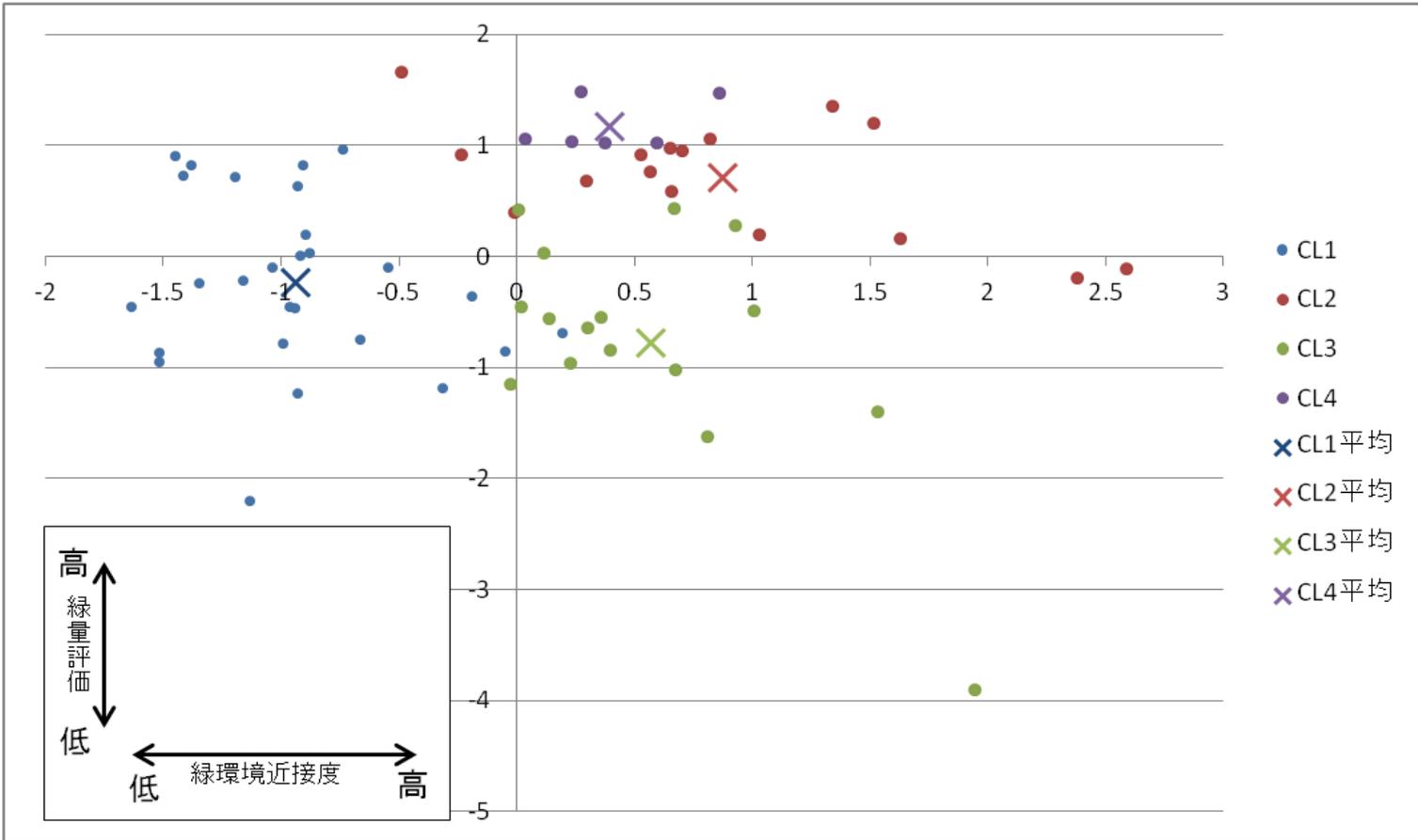
		緑量		管理		眺め	
		児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者
小学校区	坂ノ市	-0.10	-0.09	0.28	-0.03	-0.09	0.09
	大道	-0.91	-1.11	-0.47	0.14	-0.06	-0.25
	横瀬	-0.14	-0.10	0.11	-0.69	-0.36	-0.36
	寒田	-0.14	-0.18	0.22	-0.05	0.22	-0.02
	金池	-1.05	-1.11	-0.33	0.19	-0.02	-0.11
	津留	-0.62	-0.68	0.00	-0.22	-0.15	-0.08
	戸次	0.03	-0.06	0.33	-0.03	-0.05	-0.18
	荏隈	-0.73	-0.75	-0.06	0.26	-0.11	-0.28
	全体	-0.42	-0.47	0.05	-0.18	-0.07	-0.13
評価点	3	とても多すぎる		とても手入れされている		とても良い	
	2	多すぎる		手入れされている		良い	
	1	やや多すぎる		やや手入れされている		やや良い	
	0	ちょうどよい		ふつう		ふつう	
	-1	やや少なすぎる		やや荒れている		やや悪い	
	-2	少なすぎる		荒れている		悪い	
	-3	とても少なすぎる		とても荒れている		とても悪い	

凡例  : -0.50以下

 : +0.50以上

カテゴリースコアをもとにクラスター分析(Ward法)を行う。分析の結果4つのクラスターに分類された。各クラスターのサンプルスコアプロット図を以下に示す。

第1主成分「緑環境近接度」－第2主成分「緑量評価」



図：第1主成分－第2主成分サンプルスコアプロット図

カテゴリースコアをもとにクラスター分析(Ward法)を行う。分析の結果4つのクラスターに分類された。各クラスターのサンプルスコアプロット図を以下に示す。

第1主成分「緑環境近接度」－第3主成分「居住密度」

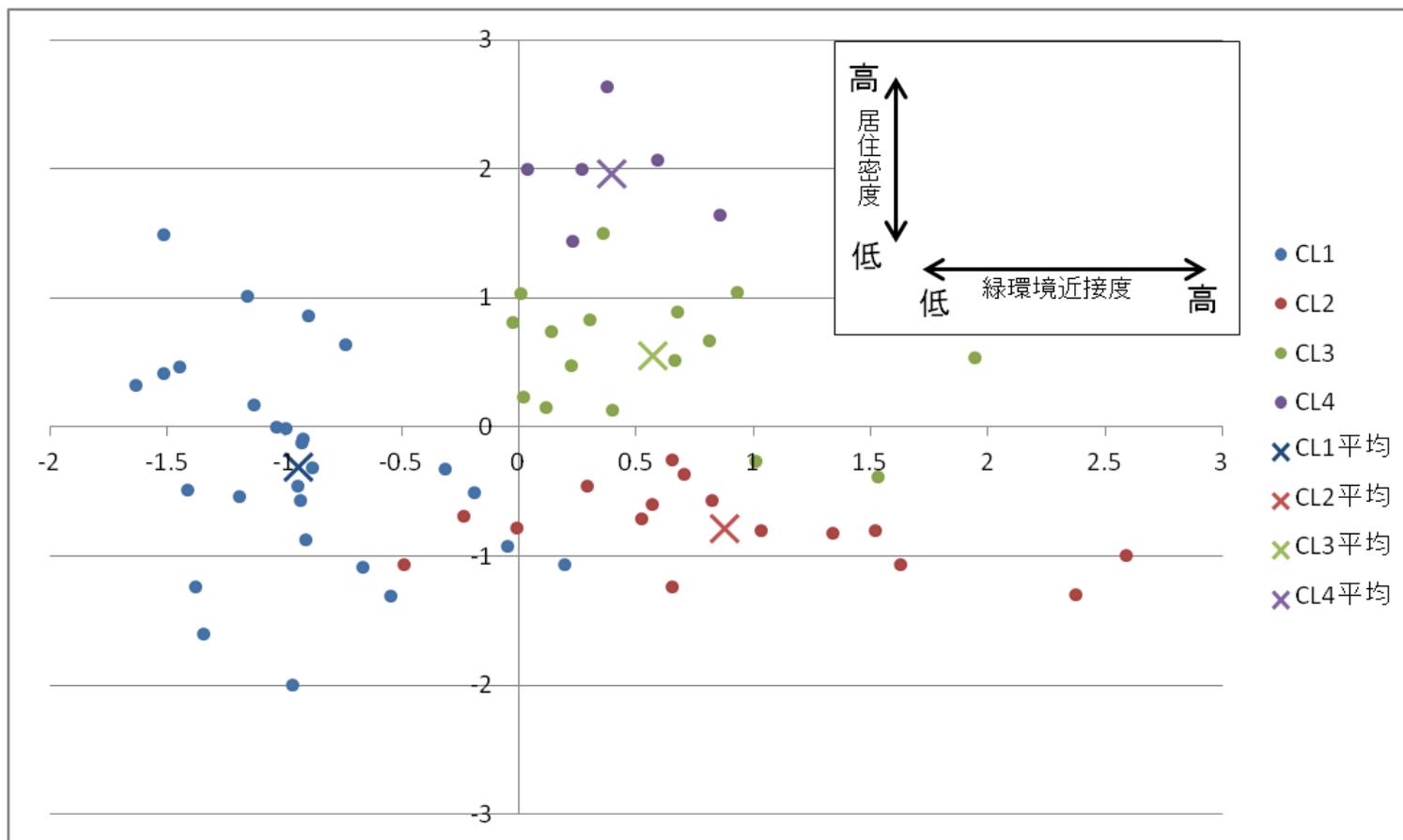
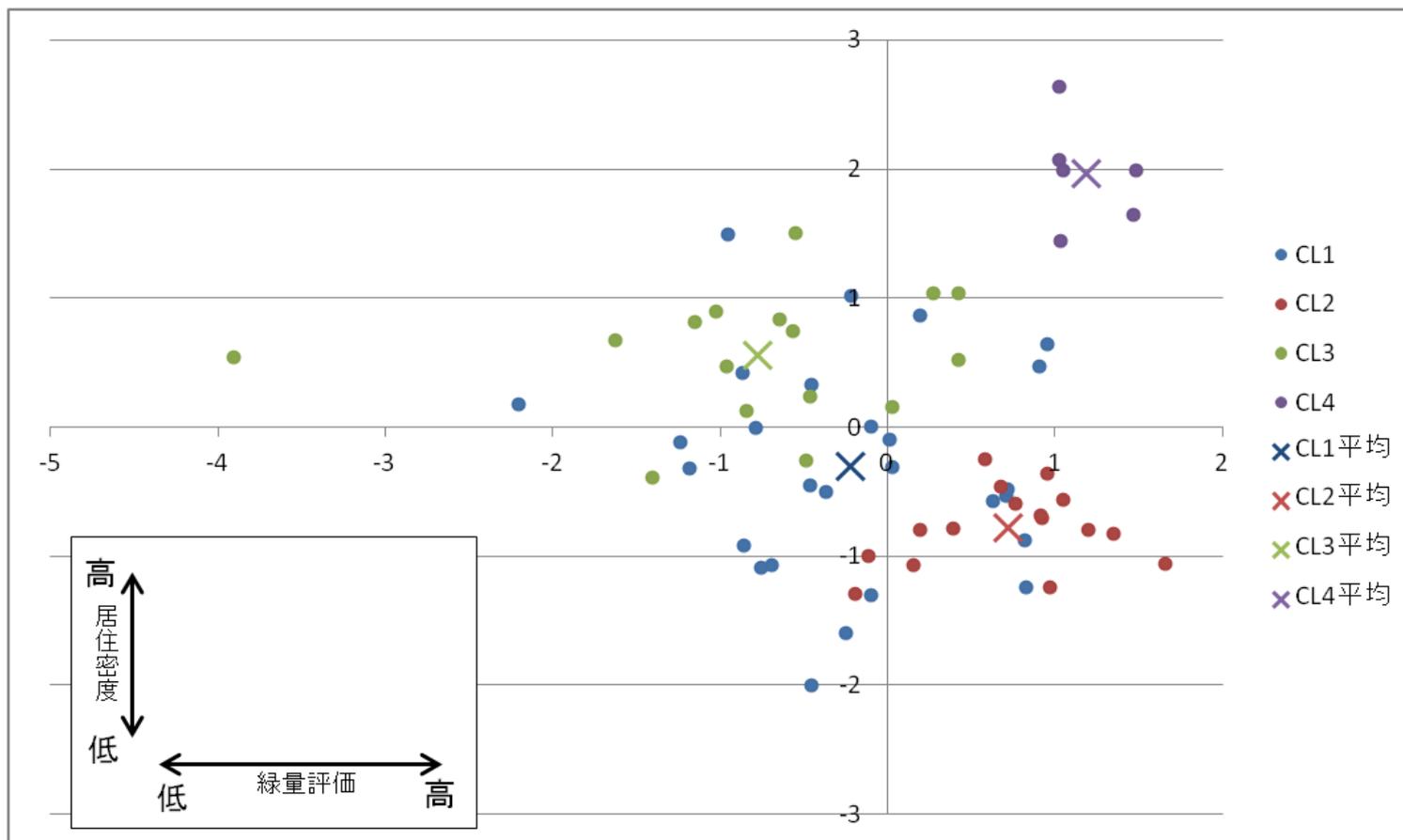


図: 第1主成分－第3主成分サンプルスコアプロット図

カテゴリースコアをもとにクラスター分析(Ward法)を行う。分析の結果4つのクラスターに分類された。各クラスターのサンプルスコアプロット図を以下に示す。

第2主成分「緑量評価」－第3主成分「居住密度」



図：第2主成分－第3主成分サンプルスコアプロット図

カテゴリースコアの高低をもとにしたクラスターの特性とクラスターごとの変数の平均を示す。

表: クラスターの特性

	特性			公園数
	緑環境近接度	緑量評価	居住密度	
クラスター1	低	低	低	27
クラスター2	高	高	低	16
クラスター3	高	低	高	16
クラスター4	高	高	高	6

表: 変数の平均

	公園面積 (ha)	緑被率 (%)	住居系建物棟数	工業系建物棟数	商業系建物棟数	緑地面積 (ha)	標高(m)	傾斜(°)	公園学校間距離(km)	公園数
クラスター1	0.218	26.07	351.59	9.67	21.52	0.375	0.78	1.10	0.725	27
クラスター2	0.087	36.66	273.94	5.81	5.81	3.252	4.62	8.57	1.479	16
クラスター3	0.358	24.51	426.38	2.19	4.81	2.236	5.39	7.60	1.300	16
クラスター4	0.101	58.90	749.00	1.33	4.83	1.187	6.84	4.56	1.330	6
最大値	1.102	70.75	872	24	45	9.459	8.73	17.00	2.156	
平均値	0.209	31.32	388	6	12	1.616	3.42	4.86	1.108	
最小値	0.015	2.94	104	0	0	0.000	0.30	0.02	0.178	

■ クラスター1(緑環境近接度: **低**, 緑量評価: **低**, 居住密度: **低**)

標高が低く、傾斜も緩やかで周辺の緑地面積が小さい。また、商業系建物棟数も多いため、市街地に分布していることがわかる、緑被率、公園面積ともに中程度である。

カテゴリースコアの高低をもとにしたクラスターの特性とクラスターごとの変数の平均を示す。

表: クラスターの特性

	特性			公園数
	緑環境近接度	緑量評価	居住密度	
クラスター1	低	低	低	27
クラスター2	高	高	低	16
クラスター3	高	低	高	16
クラスター4	高	高	高	6

表: 変数の平均

	公園面積 (ha)	緑被率 (%)	住居系建物棟数	工業系建物棟数	商業系建物棟数	緑地面積 (ha)	標高(m)	傾斜(°)	公園学校間距離(km)	公園数
クラスター1	0.218	26.07	351.59	9.67	21.52	0.375	0.78	1.10	0.725	27
クラスター2	0.087	36.66	273.94	5.81	5.81	3.252	4.62	8.57	1.479	16
クラスター3	0.358	24.51	426.38	2.19	4.81	2.236	5.39	7.60	1.300	16
クラスター4	0.101	58.90	749.00	1.33	4.83	1.187	6.84	4.56	1.330	6
最大値	1.102	70.75	872	24	45	9.459	8.73	17.00	2.156	
平均値	0.209	31.32	388	6	12	1.616	3.42	4.86	1.108	
最小値	0.015	2.94	104	0	0	0.000	0.30	0.02	0.178	

■クラスター2 (緑環境近接度:高, 緑量評価:高, 居住密度:低)

公園面積が最小であり, 公園学校間距離も長い。また, 周辺の緑地面積と傾斜が最大であることから, 山間に分布していることがわかる。

カテゴリースコアの高低をもとにしたクラスターの特性とクラスターごとの変数の平均を示す。

表: クラスターの特性

	特性			公園数
	緑環境近接度	緑量評価	居住密度	
クラスター1	低	低	低	27
クラスター2	高	高	低	16
クラスター3	高	低	高	16
クラスター4	高	高	高	6

表: 変数の平均

	公園面積 (ha)	緑被率 (%)	住居系建物棟数	工業系建物棟数	商業系建物棟数	緑地面積 (ha)	標高(m)	傾斜(°)	公園学校間距離(km)	公園数
クラスター1	0.218	26.07	351.59	9.67	21.52	0.375	0.78	1.10	0.725	27
クラスター2	0.087	36.66	273.94	5.81	5.81	3.252	4.62	8.57	1.479	16
クラスター3	0.358	24.51	426.38	2.19	4.81	2.236	5.39	7.60	1.300	16
クラスター4	0.101	58.90	749.00	1.33	4.83	1.187	6.84	4.56	1.330	6
最大値	1.102	70.75	872	24	45	9.459	8.73	17.00	2.156	
平均値	0.209	31.32	388	6	12	1.616	3.42	4.86	1.108	
最小値	0.015	2.94	104	0	0	0.000	0.30	0.02	0.178	

■クラスター3 (緑環境近接度:高, 緑量評価:低, 居住密度:高)

標高が高く、傾斜が急であり、周辺緑地面積も大きいことから山間に分布していることがわかる。また、公園面積が最大である。

カテゴリースコアの高低をもとにしたクラスターの特性とクラスターごとの変数の平均を示す。

表: クラスターの特性

	特性			公園数
	緑環境近接度	緑量評価	居住密度	
クラスター1	低	低	低	27
クラスター2	高	高	低	16
クラスター3	高	低	高	16
クラスター4	高	高	高	6

表: 変数の平均

	公園面積 (ha)	緑被率 (%)	住居系建物棟数	工業系建物棟数	商業系建物棟数	緑地面積 (ha)	標高(m)	傾斜(°)	公園学校間距離(km)	公園数
クラスター1	0.218	26.07	351.59	9.67	21.52	0.375	0.78	1.10	0.725	27
クラスター2	0.087	36.66	273.94	5.81	5.81	3.252	4.62	8.57	1.479	16
クラスター3	0.358	24.51	426.38	2.19	4.81	2.236	5.39	7.60	1.300	16
クラスター4	0.101	58.90	749.00	1.33	4.83	1.187	6.84	4.56	1.330	6
最大値	1.102	70.75	872	24	45	9.459	8.73	17.00	2.156	
平均値	0.209	31.32	388	6	12	1.616	3.42	4.86	1.108	
最小値	0.015	2.94	104	0	0	0.000	0.30	0.02	0.178	

■クラスター4 (緑環境近接度:高, 緑量評価:高, 居住密度:高)

住居系建物棟数が多く、住宅地に分布しているといえる。また、公園面積は最小であり、緑被率は最も高い値を示している。

都市公園の種類

種類	種別	内容
住区 基幹公園	街区公園	もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離250mの範囲内で1箇所当たり面積0.25haを標準として配置する。
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区当たり1箇所を誘致距離500mの範囲内で1箇所当たり面積2haを標準として配置する。
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離1kmの範囲内で1箇所当たり面積4haを標準として配置する。 都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園(カントリーパーク)は、面積4ha以上を標準とする。
都市 基幹公園	総合公園	都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10～50haを標準として配置する。
	運動公園	都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積15～75haを標準として配置する。

都市公園の種類

緩衝緑地等	特殊公園	風致公園、動植物公園、歴史公園、墓園等特殊な公園で、その目的に則し配置する。
	緩衝緑地	大気汚染、騒音、振動、悪臭等の公害防止、緩和若しくはコンビナート地帯等の災害の防止を図ることを目的とする緑地で、公害、災害発生源地域と住居地域、商業地域等とを分離遮断することが必要な位置について公害、災害の状況に応じ配置する。
	都市緑地	主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1箇所あたり面積0.1ha以上を標準として配置する。但し、既成市街地等において良好な樹林地等がある場合あるいは植樹により都市に緑を増加又は回復させ都市環境の改善を図るために緑地を設ける場合にあってはその規模を0.05ha以上とする。(都市計画決定を行わずに借地により整備し都市公園として配置するものを含む)
	緑道	災害時における避難路の確保、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、近隣住区又は近隣住区相互を連絡するように設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地で幅員10～20mを標準として、公園、学校、ショッピングセンター、駅前広場等を相互に結ぶよう配置する。

表:利用する緑の7段階評価(公園類型ごと)

			緑量	空間の広さ	遊具の数	休憩施設 (ベンチ等)の数	生物の数	管理	眺め
都市公園類型	街区公園	クラスター1	3.66	3.65	3.05	3.19	2.99	4.11	4.02
		クラスター2	3.78	3.39	2.67	2.67	2.47	3.47	4.27
		クラスター3	3.84	3.76	2.99	3.40	3.32	3.89	4.07
		クラスター4	3.50	3.33	3.33	2.50	3.00	2.67	3.17
	近隣公園		3.86	4.00	2.96	3.26	2.85	5.11	4.70
	総合公園		3.51	3.71	3.11	2.94	2.52	4.11	4.77
	全体		3.68	3.65	2.79	2.99	2.98	4.04	4.17
評価点	7	とても多すぎる	とても広すぎる	とても多すぎる	とても多すぎる	とても多すぎる	とても多すぎる	とても手入れされている	とても良い
	6	多すぎる	広すぎる	多すぎる	多すぎる	多すぎる	多すぎる	手入れされている	良い
	5	やや多すぎる	やや広すぎる	やや多すぎる	やや多すぎる	やや多すぎる	やや多すぎる	やや手入れされている	やや良い
	4	ちょうどよい	ちょうどよい	ちょうどよい	ちょうどよい	ちょうどよい	ちょうどよい	ふつう	ふつう
	3	やや少なすぎる	やや狭すぎる	やや少なすぎる	やや少なすぎる	やや少なすぎる	やや少なすぎる	やや荒れている	やや良い悪い
	2	少なすぎる	狭すぎる	少なすぎる	少なすぎる	少なすぎる	少なすぎる	荒れている	悪い
	1	とても少なすぎる	とても狭すぎる	とても少なすぎる	とても少なすぎる	とても少なすぎる	とても少なすぎる	とても荒れている	とても悪い

凡例  当該評価点のうち上位2項目
 当該評価点のうち下位2項目

表:利用する緑の7段階評価(公園類型ごと)

		緑量	空間の広さ	遊具の数	休憩施設 (ベンチ等)の数	生物の数	管理	眺め	
都市公園 類型	街区公園	クラスター1	3.66	3.65	3.05	3.19	2.99	4.11	4.02
		クラスター2	3.78	3.39	2.67	2.67	2.47	3.47	4.27
		クラスター3	3.84	3.76	2.99	3.40	3.32	3.89	4.07
		クラスター4	3.50	3.33	3.33	2.50	3.00	2.67	3.17
	近隣公園	3.86	4.00	2.96	3.26	2.85	5.11	4.70	
	総合公園	3.51	3.71	3.11	2.94	2.52	4.11	4.77	
	全体	3.68	3.65	2.79	2.99	2.98	4.04	4.17	

都市公園類型		利用する緑と自宅間の 距離(m)	想定月総合利用時間 (h)
街区 公園	クラスター1	324.1	8.2
	クラスター2	212.4	4.4
	クラスター3	298.2	8.5
	クラスター4	127.3	4.9
近隣公園		665.7	14.9
総合公園		643.3	3.0
全体		334.2	10.3

表：街区公園各指標の相関分析

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(1) 利用者数(人)										
(2) 想定月総利用時間(h)	.138									
(3) 利用する緑と自宅間の距離(m)	.351*	.012								
(4) 公園面積(m ²)	.288	.214	.269							
(5) 緑被率(%)	-.241	-.260	-.014	-.406*						
(6) 住居系建物数(棟)	-.297	-.117	.039	-.176	.526**					
(7) 工業系建物数(棟)	.063	-.076	.132	-.023	.104	-.240				
(8) 商業系建物数(棟)	-.055	.002	.108	.036	.187	.044	.627**			
(9) 緑地クランプ面積(m ²)	.066	-.101	-.160	-.127	-.049	-.317	-.440**	-.562**		
(10) 標高平均(m)	-.052	-.086	-.093	-.151	.135	.246	-.678**	-.727**	.637**	
(11) 傾斜平均(°)	-.088	-.160	-.204	-.164	.046	-.096	-.611**	-.703**	.849**	.829**
(12) 公園学校間距離(m)	-.130	-.310	-.346*	-.163	-.040	-.020	-.498**	-.593**	.638**	.671**
(13) 公園出入口	.121	.287	.076	.725**	-.434**	-.092	.103	.287	-.340*	-.394*
(14) 電灯個数	.329*	.200	.273	.926**	-.388*	-.186	-.078	-.041	-.036	-.089
(15) トイレ便器数	-.041	.344*	.102	.535**	-.344*	-.269	.194	.324	-.269	-.515**
(16) ゴミ箱個数	.086	-.077	-.058	.076	.071	.371*	-.230	-.037	-.053	.099
(17) 遊具種類	.179	-.096	.079	.242	.115	-.020	.173	.068	-.231	-.110
(18) 遊具個数	.160	-.008	.191	.392*	.129	.016	.166	.107	-.262	-.121
(19) ベンチ個数	.352*	.095	.233	.848**	-.293	-.178	.140	.060	-.160	-.167
(20) 中高木本数	.219	.212	.215	.592**	-.082	.036	-.141	-.129	.010	.107

*. 相関係数は 5% 水準で有意(両側)です。

** 相関係数は 1% 水準で有意(両側)です。

表：街区公園各指標の相関分析

	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
(1) 利用者数(人)										
(2) 想定月総利用時間(h)										
(3) 利用する緑と自宅間の距離(m)										
(4) 公園面積(m ²)										
(5) 緑被率(%)										
(6) 住居系建物数(棟)										
(7) 工業系建物数(棟)										
(8) 商業系建物数(棟)										
(9) 緑地クランプ面積(m ²)										
(10) 標高平均(m)										
(11) 傾斜平均(°)										
(12) 公園学校間距離(m)	.675**									
(13) 公園出入口	-.365*	-.339*								
(14) 電灯个数	-.139	-.047	.615**							
(15) トイレ便器数	-.429**	-.322	.601**	.567**						
(16) ゴミ箱个数	.119	.017	.115	-.044	-.254					
(17) 遊具種類	-.119	-.281	.090	.162	.000	.132				
(18) 遊具个数	-.175	-.297	.213	.314	.089	.072	.861**			
(19) ベンチ个数	-.179	-.287	.535**	.732**	.339*	.163	.492**	.563**		
(20) 中高木本数	.130	-.041	.350*	.461**	-.047	.512**	.357*	.405*	.646**	

*. 相関係数は 5% 水準で有意(両側)です。

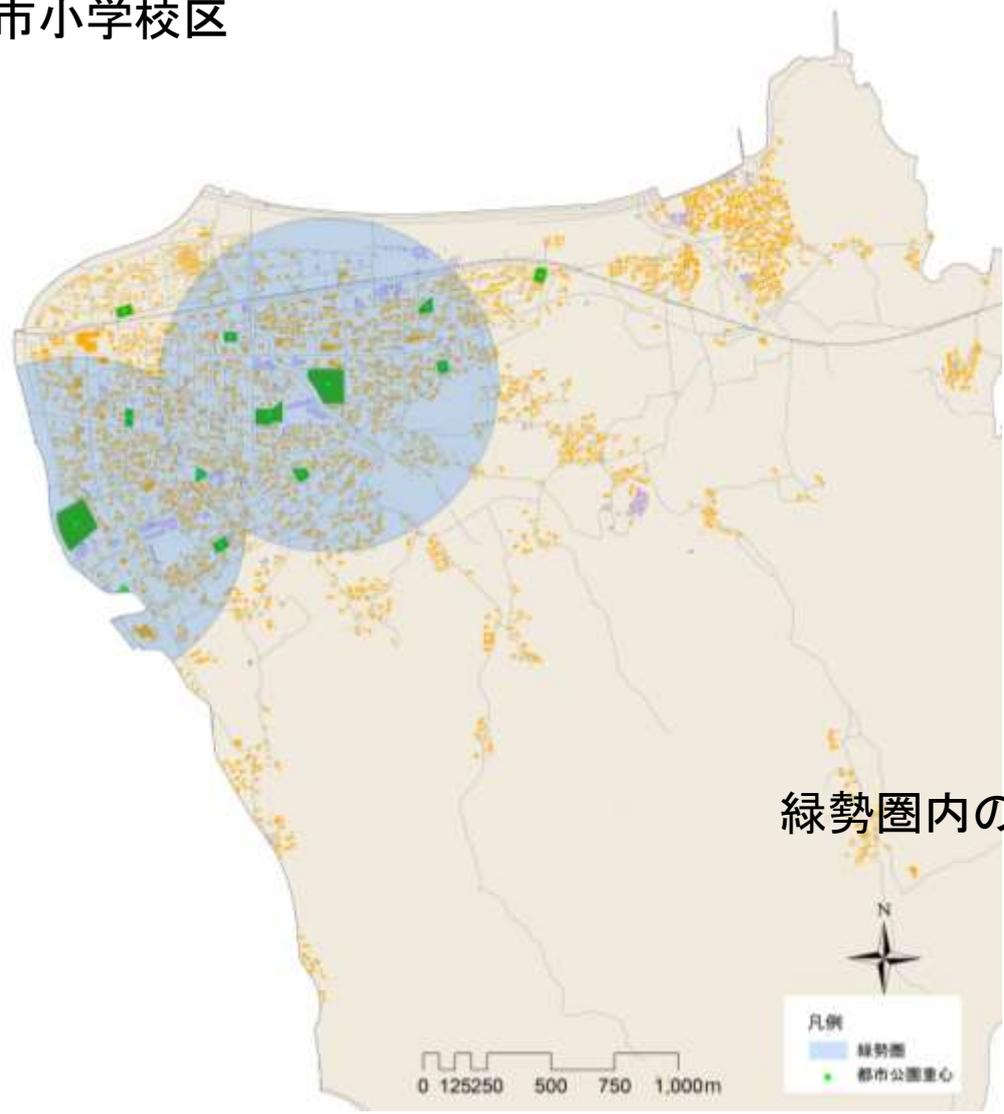
**. 相関係数は 1% 水準で有意(両側)です。

各小学校区の公園分類該当数は以下の通り

表:各小学校区の公園類型該当数

学校区	都市公園分類						
	全体	街区公園クラスター				近隣公園	総合公園
		1	2	3	4		
坂ノ市	13	11	0	0	0	2	0
大道	7	4	1	0	0	0	1
横瀬	10	0	1	3	6	0	0
寒田	22	1	11	9	0	1	0
金池	4	0	2	0	0	0	1
津留	9	7	0	0	0	0	2
戸次	7	2	1	4	0	0	0
荏隈	2	2	0	0	0	0	0

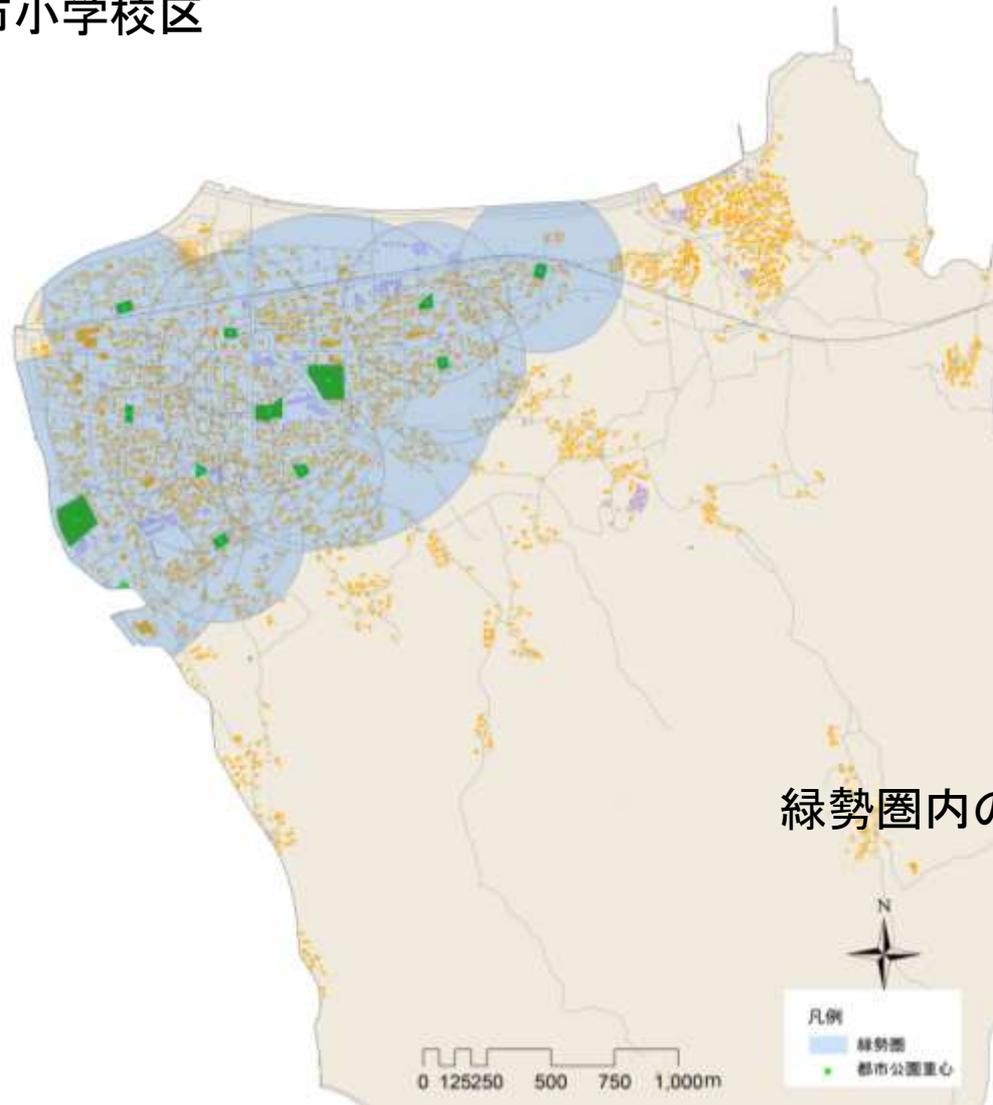
【14h】緑勢圏：坂ノ市小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

50.63%

【8h】緑勢圏：坂ノ市小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

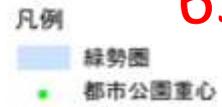
61.44%

【8h】緑勢圏：大道小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

63.98%

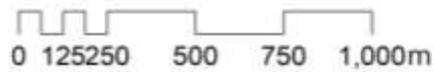


【8h】緑勢圏: 大道小学校区



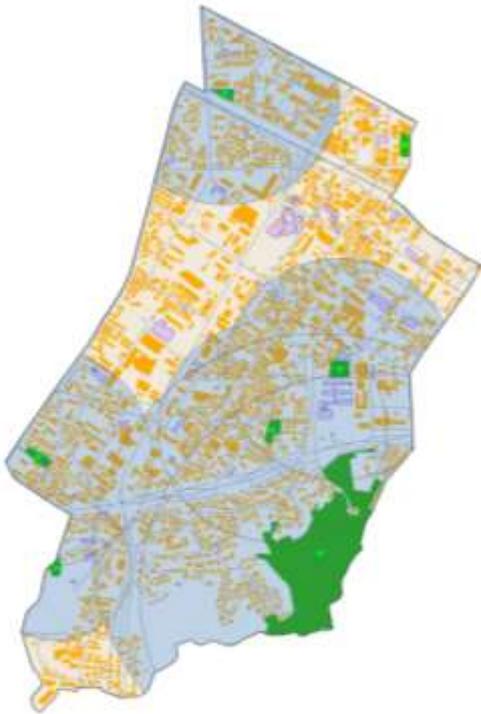
緑勢圏内の住居系建物割合

67.02%



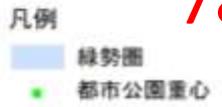
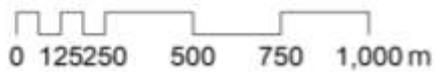
- 凡例
- 緑勢圏
 - 都市公園重心

【3h】緑勢圏: 大道小学校区

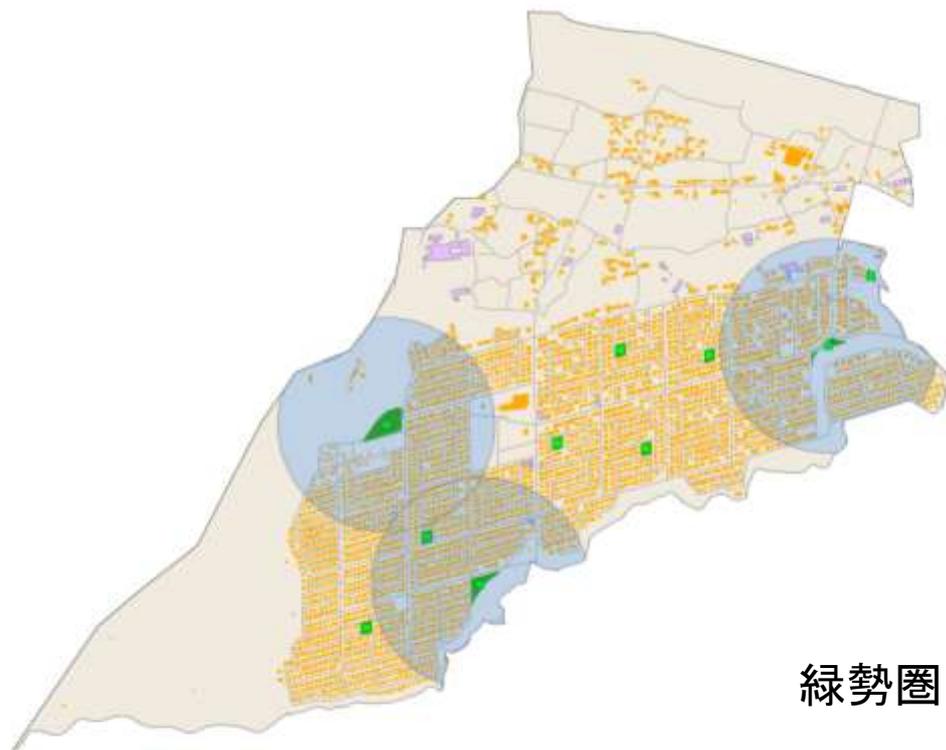


緑勢圏内の住居系建物割合

78.79%



【8h】緑勢圏：横瀬小学校区



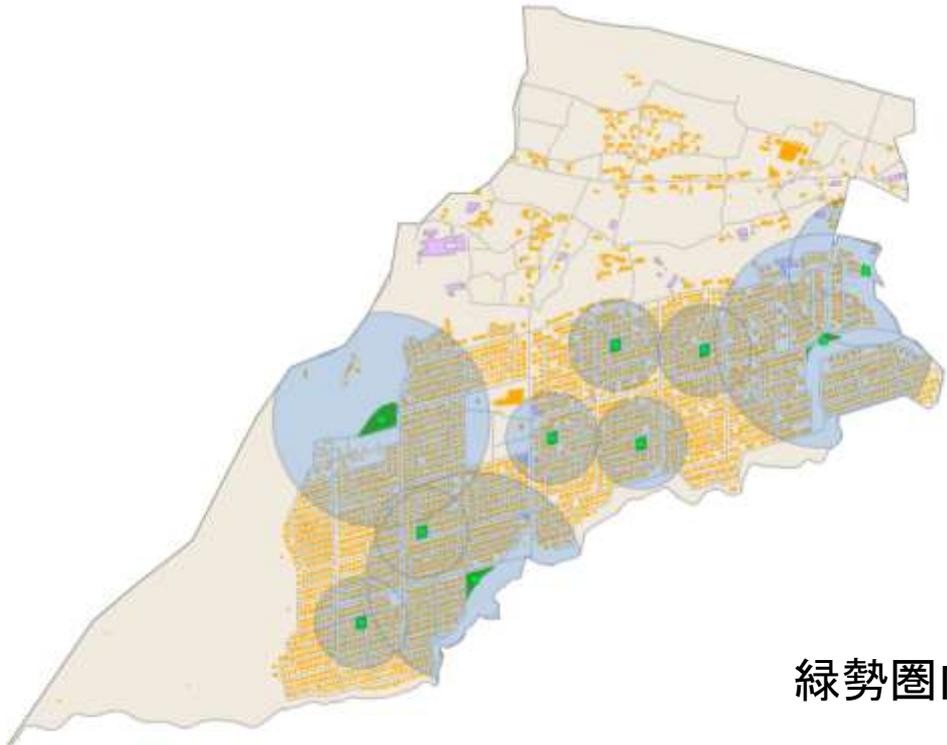
緑勢圏内の住居系建物割合

46.64%

- 凡例
- 緑勢圏
- 都市公園重心

0 125 250 500 750 1,000 m

【4h】緑勢圏：横瀬小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

69.65%

- 凡例
- 緑勢圏
 - 都市公園重心

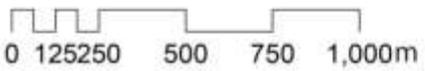
0 125 250 500 750 1,000 m

【4h】緑勢圏：金池小学校区

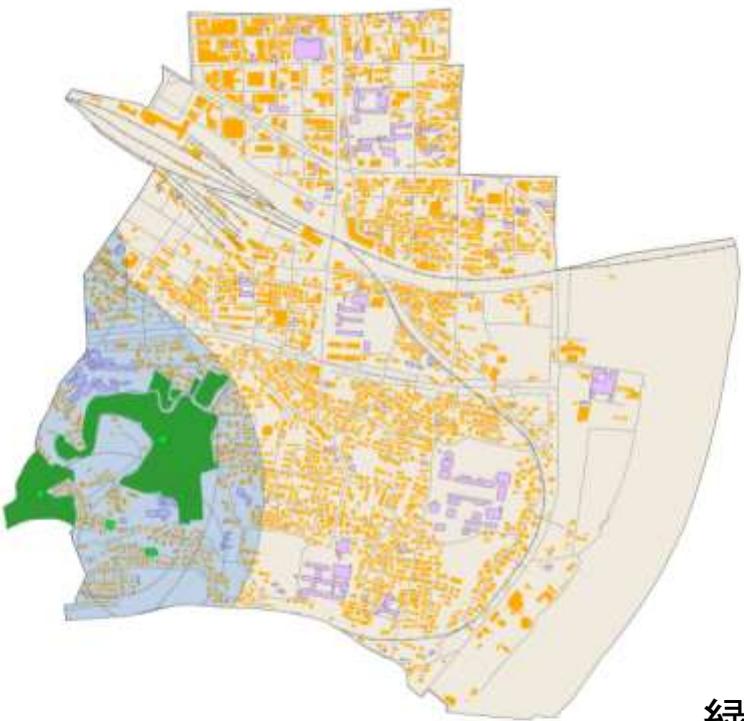


緑勢圏内の住居系建物割合

7.48%

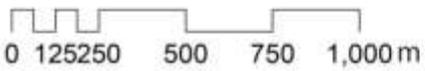


【3h】緑勢圏:金池小学校区

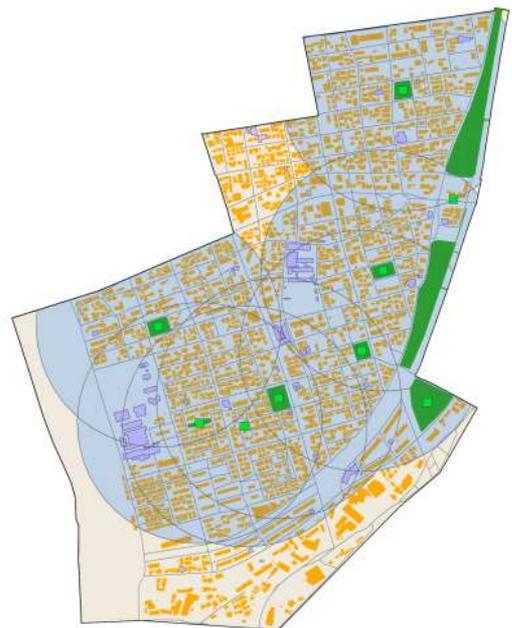


緑勢圏内の住居系建物割合

18.66%



【8h】緑勢圏：津留小学校区

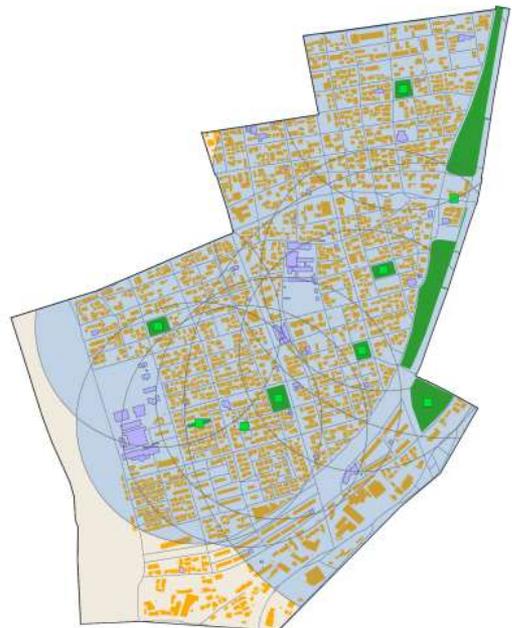


緑勢圏内の住居系建物割合

凡例 89.07%
■ 緑勢圏
■ 都市公園重心

0 125 250 500 750 1,000 m

【3h】緑勢圏：津留小学校区

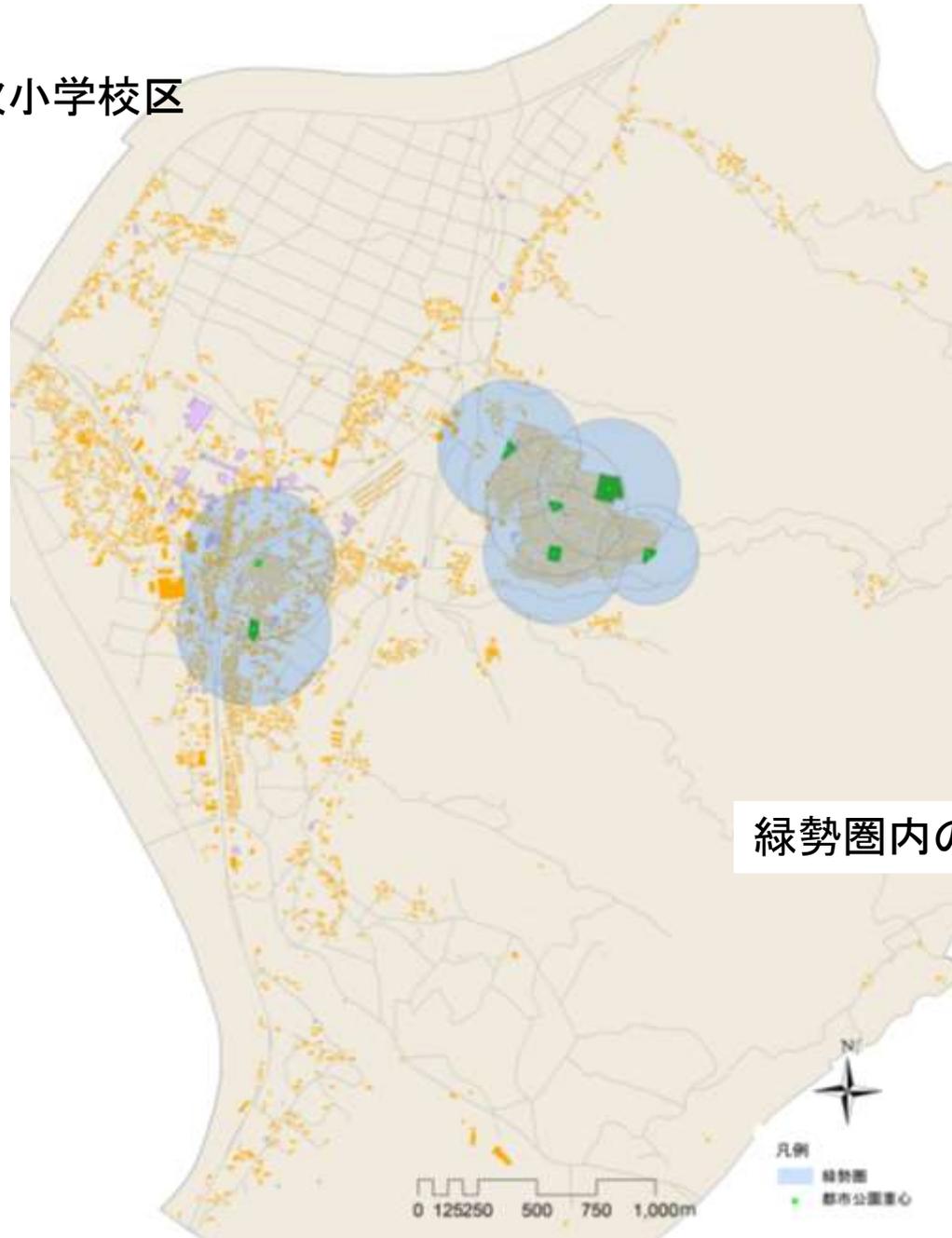


N
↑
緑勢圏内の住居系建物割合

凡例 96.20%
■ 緑勢圏
■ 都市公園重心

0 125 250 500 750 1,000 m

【8h】緑勢圏：戸次小学校区



緑勢圏内の住居系建物割合

43.29%

【8h】緑勢圏：荏隈小学校区



N
緑勢圏内の住居系建物割合

↓
51.72%

- 凡例
- 緑勢圏
 - 都市公園重心

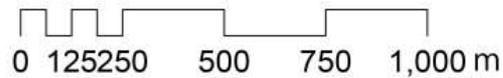


表: アンケート調査結果と緑勢圏評価の比較

	アンケート調査項目特性					緑勢圏評価特性		
	緑の認知と利用	緑利用の内容	利用する緑の現状の評価	自宅周辺の緑の現状の評価	学校・地域・家庭での環境学習	緑勢圏評価	緑勢圏による利用緑地の選択	
学校区	坂ノ市	A	A	A	B	C	B	B
	大道	B	B	B	C	D	C	C
	横瀬	C	D	B	B	A	B	D
	寒田	A	A	A	B	A	A	B
	金池	B	B	C	C	B	D	C
	津留	B	D	B	B	C	A	A
	戸次	A	C	A	A	B	C	B
	荏隈	D	A	C	B	D	C	D
特性	A	山林、田畑の認知度 → 高	利用頻度 → 高	安全性評価 → 高	緑量評価 → 高	学習内容: 自然体験 → 高 取入希望内容: 全て → 高	想定利用時間 → 長 緑勢圏範囲 → 広域	4選択可能住居 → 多
	B	山林、田畑の認知度 → 低	利用頻度 → 低	安全性評価 → 低	緑量評価 → 低	学習内容: 自然体験 → 高 取入希望内容: 全て → 中	想定利用時間 → 長 緑勢圏範囲 → 中域	2選択可能住居 → 多
	C	田畑のみ認知度 → 低	利用頻度が高、低に分かれている	緑量評価 → 低	緑量評価 → 低 眺め評価 → 低	学習内容: 自然体験 → 低 取入希望内容: 自然体験 → 高	想定利用時間 → 短 緑勢圏範囲 → 狭域	2選択可能住居 → 中
	D	田畑のみ認知度 → 高	利用頻度以外の項目に特徴			学習内容: 自然体験 → 低 取入希望内容: 全て → 高	想定利用時間 → 短 緑勢圏範囲 → 極狭	2選択可能住居 → 少

表: アンケート調査結果も緑勢圏評価の比較

		アンケート調査特性		緑勢圏評価特性	
		利用する緑の現状の評価	自宅周辺の緑の現状の評価	緑勢圏評価	緑勢圏による利用緑地の選択
学校区	坂ノ市	A	B	B	B
	大道	B	C	C	C
	横瀬	B	B	B	D
	寒田	A	B	A	B
	金池	C	C	D	C
	津留	B	B	A	A
	戸次	A	A	C	B
	荏隈	C	B	C	D
	特性	A	安全性評価 → 高 緑量評価 → 高	安全性評価 → 高 緑量評価 → 高	想定利用時間 → 長 緑勢圏範囲 → 広域
B	安全性評価 → 低	緑量評価 → 低	想定利用時間 → 長 緑勢圏範囲 → 中域	2選択可能住居 → 多	
C	緑量評価 → 低	緑量評価 → 低 眺め評価 → 低	想定利用時間 → 短 緑勢圏範囲 → 狭域	2選択可能住居 → 中	
D			想定利用時間 → 短 緑勢圏範囲 → 極狭	2選択可能住居 → 少	